

中学校給食の導入に係る
教育委員会検討会 意見書

平成 26 年 2 月
大磯町教育委員会

◇目 次

○ 中学校給食の検討にあたって	1
1. これまでの取り組みと進め方	2
2. 給食実施中学校の視察	3
センター方式 二宮町学校給食センター・二宮町立二宮西中学校	
デリバリー方式 愛川町立愛川中原中学校	
自校方式 開成町立文命中学校	
給食実施中学校の比較データ	7
3. 中学校給食に関するアンケート集計結果について	8
調査方法	
I 回答者のプロフィール	8
II 現在の昼食の状況	9
III 今後の昼食のあり方	11
IV 中学校給食の方式と実施	19
V その他	29
自由コメント	30
家庭弁当が良いと思う方々	
給食の導入を望む方々	
給食と家庭弁当を選べるのが良いと思う方々	
○ まとめ・考察	35
4. 給食方式の特徴と課題	36
5. 給食方式別の経費比較	37
6. 大磯町の財政状況	38
①一般会計・歳入歳出決算の状況	
②大磯町の財政指標から	
7. 小学校給食について	39
8. 中学校給食の方向性	40
○ 資料	43
中学校給食の導入に係る教育委員会検討会名簿	
検討の経過	
中学校給食に関するアンケート調査票	

中学校給食の検討にあたって

大磯町立中学校の昼食は、これまで家庭で作る弁当を基本に、子どもの健全な心と身体の成長を見守ってきました。しかし、社会情勢の変化に伴い食生活は多様化し、偏食や栄養過多による生活習慣病の低年齢化、朝食の欠食など、食生活の乱れは国民的な大きな問題となっています。また、核家族化、共働き世帯や一人親世帯の増加など、児童・生徒を取り巻く家庭環境は複雑さを増しています。

このような状況から、中学校生活三年間の中で、1回の食事の重要性が増しており、家庭環境の多様性から、中学校給食の実施を求める保護者の声も大きくなっています。

一方、学校給食法では、「学校給食が児童・生徒の心身の健全な発達」を求めていること、食育基本法では、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身につけていくためには、何よりも「食」が重要である」と記述されていることから、教育委員会としても、「食」及び「給食」の重要性を改めて認識することが求められています。

教育委員会では、中学校給食の必要性や実施に向けての課題等を調査し、食育の推進を含めた中学校給食のあり方の検討を開始しました。平成24年度には、「大磯町立中学校給食に関する懇話会」（以下、「懇話会」という。）を設置し、中学校給食の実施方法について検討を重ね、「食育を推進するためにもなるべく早い時期に自校方式での中学校給食の実施を希望する」旨の意見が出されました。さらに今年度に入り、「中学校給食の導入に係る教育委員会検討会」を組織し、懇話会の意見を踏まえ、中学校給食の必要性や実施に向けての課題等の整理・研究を行いました。

本検討会では、学校給食に関するアンケート調査の実施・分析、中学校給食実施校の視察や給食方式ごとの特徴や課題の検証などを行い、中学校給食のあり方について検討を進め、ここに教育委員会としての方向性をまとめました。

平成26年2月

大磯町教育委員会

1. これまでの取り組みと進め方

大磯町立中学校給食に関する懇話会

○開催期間 平成24年10月1日～平成25年3月26日 計6回開催

○検討内容

- ・給食導入に係る方式（案）及び懇話会での意見について
- ・大磯・国府中学校生徒会からの意見について
- ・中学校給食に係るアンケートの検討について
- ・中学校給食の実施方法について

☆懇話会における中学校給食の考え方

「給食施設の整備費等課題があり、給食実施まで時間がかかることも考えられるが、食育を推進するためにもなるべく早い時期に自校方式での中学校給食の実施を希望する。」併せて、「課題解決後、自校方式までの間、弁当を持ってくることが困難な生徒の対応として、デリバリー方式を検討する必要がある。」

中学校給食の導入に係る教育委員会検討会

○開催期間 平成25年6月12日～平成25年9月18日 計7回開催

○検討内容

- ・中学給食に関するアンケートの実施
- ・給食実施中学校の視察
(二宮町：センター方式、愛川町：デリバリー方式、開成町：自校方式)
- ・給食実施中学校3方式の比較検討
- ・給食方式による施設整備費・維持管理経費の比較検討
- ・給食方式別の課題検証
- ・中学校給食に関するアンケート結果の分析
- ・大磯町の財政状況
- ・小学校給食の状況

☆教育委員会としての中学校給食の方向性

※大磯町立中学校に関する懇話会の意見・検討内容、中学校給食に関するアンケート集計結果、給食実施中学校の視察内容、本検討会の検討内容を総合的に判断し、教育委員会としての方向性を示し、町長に意見書として提出する。

2. 給食実施中学校の視察

センター方式 二宮町学校給食センター・二宮町立二宮西中学校

○平成 25 年 6 月 27 日（木）

○参加者：教育委員 5 名、事務局 4 名（二宮町 5 名）

○視察スケジュール

学校給食センター

施設の概要説明

給食調理作業見学

質疑応答

給食の試食

二宮西中学校

給食の概要説明

生徒の様子見学（運搬～配膳～食事）

質疑応答



○給食の流れ

- ・学校給食センターで調理 ⇒ トラック 2 台で各学校へ配送 ⇒ 学校の搬入室に配膳員を設置し受取 ⇒ エレベータにて各階へ・各階エレベータ口にて、配膳員待ち受け、給食コンテナを整列 ⇒ 当番の生徒が受取・搬送 ⇒ 教室に食器・料理を並べ、生徒各自セルフサービスで受取

○生徒の配膳の様子

- ・当番の生徒は給食着に着替え、各クラス 2～3 人で給食コンテナを搬送。
- ・教室に給食を入れるとき、引き戸の段差にコンテナがつかづく場面あり。
- ・鐘が鳴ってから食べ始めまで 10～15 分程経過（昼休みは 30 分間）。
- ・一旦全員に配ってから、量が多いと思う生徒は各自なべ等に戻っていた。



○概要説明・質疑応答

- ・給食開始当時（昭和 47 年）からセンター方式だったため、各学校がセンター方式に対応した造りになっている。従って、新施設（H22）の検討において、結果的にセンター方式となった。
- ・アレルギー対応食は作っていない。
- ・食材の放射能検査について・・・保護者からの問い合わせはほとんどない。県の測定器で計測。産地は公表している。

※センター方式を実施する場合は、各学校に給食搬送室と配膳員、各階の配膳準備室、エレベーター整備が必要。給食のコンテナを運ぶため学校内の段差解消も必要。



デリバリー方式 愛川町立愛川中原中学校

○平成 25 年 7 月 2 日（火）

○参加者：教育委員 5 名、事務局 4 名（愛川町 5 名）

○視察スケジュール

業者搬入の様子

概要の説明

生徒の様子見学（運搬～配膳～食事～片付け）

給食の試食

質疑応答

○給食の流れ

委託業者から学校の給食保管室へ給食（弁当）を搬入 ⇒ 配膳員が受け取り、学年・クラスごとの棚に配置 ⇒ 当番の生徒 2～3 人が受け取りに来室 ⇒ 各クラスへ運搬 ⇒ 生徒各自が受け取り着席 ⇒ 揃ったところで食事開始 ⇒ 食後片付け、当番の生徒が給食保管室へ返却

○生徒たちの様子

- ・チャイム後 1～2 分で給食保管室に到着。白衣等の着替えはなし。
- ・食事はチャイムが鳴ってから 5～10 分後に開始。
- ・生徒の運搬は学校内すべて一方通行とし、導線がスムーズに流れ、事故や時間のロスがないように工夫されていた。

○概要説明・質疑応答

- ・給食保管室・・・15 畳程度の一室を弁当保管庫として利用。委託業者から配膳員を一人配置。別用途の室だったが、リフォームし、エアコンと水道を取り付けた。



- ・学校カリキュラム・・・影響はなし。時間割を変えずにやってみたら慣れるにしたがってスムーズに出来るようになった。
 - ・ご飯箱は、保温タイプのため、ほんのり温かい。
 - ・食材の放射能検査・・・月 1 回使用前に 1 品のみ。小中ごとに県の機器にて検査。
 - ・食事量の調節・・・主食（ごはん）のみ、おかわり用を若干用意。
- ※デリバリー方式を実施する場合は、各学校に給食保管室と配膳員が必要。



自校方式 開成町立文命中学校

- 平成 25 年 7 月 10 日（水）
- 参加者：教育委員 5 名、事務局 3 名（開成町 5 名）
- 視察スケジュール
 - 給食の概要説明
 - 生徒の配膳の様子を見学（運搬～配膳～食事）
 - 給食室を見学
 - 給食の試食
 - 質疑応答



- 給食の流れ
 - 給食室からエレベータで各階へ配送 ⇒ 配膳員が各階エレベータ付近の廊下に給食コンテナを配置 ⇒ 当番の生徒が給食コンテナを運搬 ⇒ 各クラスで配膳 ⇒ 食事

- 生徒たちの様子
 - ・生徒たちは給食着に着替えて各クラス 2～3 人でコンテナを搬送
 - ・食事開始まで 10～15 分経過

- 概要説明・質疑応答
 - ・給食はエレベータで各階に上げるが、E Vホールが狭いため、コンテナを廊下に一列に並べている。
 - ・現在の給食方式（自校）は、災害時を想定し政策的



に実施している。

- ・食材の放射能検査・・・問い合わせはなく、食材検査はしていない。市場に出ているものは大丈夫という前提でこれを通した。



○給食実施中学校の比較データ

項目		二宮町	愛川町	開成町
人口(人)	H25.5.1現在	29,138	41,183	16,756
世帯数	H25.5.1現在	11,487	16,311	6,040
面積(km ²)		9.08	34.29	6.56
H25当初予算規模		77億1,000万円	120億1,200万円	50億7,351万円
うち、教育費		6億8,917万円 (8.9%)	12億8,438万円 (10.7%)	6億6,608万円 (13.1%)
財政力指数(H23年度)		0.79	1.06	0.97
地方債残高(一般会計・H23年度末)		72億2,800万円	68億5,600万円	52億5,100万円
児童・生徒数(人) (H24学校基本調査・公立)	小学校	1,419	2,287	1,098
	中学校	764	1,270	484
	計	2,183	3,557	1,582
学校数 (H24学校基本調査) (公立・本校)	小学校	3	6	2
	中学校	2	3	1
給食方式	小学校 中学校	センター	デリバリー (弁当併用制)	自校
給食関連施設整備費		・土地 1.4億円 ・整備費 7.8億円		
年間維持管理費 (人件費含)		7,600万円 ※町立小中学5校 2,183人	3,000万円 ※町立中学3校 500人	2,700万円 ※文命中学校 484人
現方式に至った経過等		・平成5年頃より老朽化した給食センターの建替等の検討を開始。 ・昭和47年の給食開始時からセンター方式だったため、各学校はこの方式用に整備されていること、保護者にも根付いていることから、従前どおり本方式として、新たな場所に建築整備し、平成22年9月から運用を開始。	・平成15年度から給食実施に向けて検討を開始。 ・諸事情により弁当持参できない生徒の対策を最優先に検討を進め、財政状況、アレルギー対応、給食費保護者負担等総合的に判断し、弁当併用による本方式に決定、平成21年10月より運用を開始。	・昭和40年、完全給食開始から現在に至る。 ・当初から自校方式であること、災害時の対応も考慮し政策的見地から自校方式を継続している。
授業日課への影響		当初からの方式を変更していないので影響はない。	授業日課を変更せずに実施したので影響はない。	当初からの方式を変更していないので影響はない。学習指導要領の変更による抜本的な課題である。
給食費 (保護者負担)		300円/食(食材+牛乳) ※公費負担分 (参考試算)7,600万円÷ 2,183人÷190日 =183円/食	280円/食(食材+牛乳) ※月100円公費補助 ※公費負担分(愛川町より) =220円/食	280円/食(食材+牛乳) ※公費負担分 (参考試算)=2,700万円÷ 484人÷190日=293円/食
必要な設備関係		・給食調理場用地 ・給食調理場施設 ・運搬車両 (各学校) ・配膳待機室 ・ダムウェーダー	(各学校) ・配膳待機室 ・ランチボックス、箸、スプーン	(各学校) ・給食調理場用地 ・給食調理場施設 ・配膳待機室 ・ダムウェーダー
必要な人事措置		・給食作業員 ・施設管理事務員 ・栄養士 ・配膳員(各学校)	・栄養士(給食費等事務含) ・配膳員(各学校)	・給食作業員(配膳員兼務) ・栄養士(給食費等事務含)
本町における課題等		・用地の取得 ・都市計画法による建築制限への対応 ・施設整備費、維持管理経費の確保		・用地の確保 ・施設整備費、維持管理経費の確保

3. 中学校給食に関するアンケート集計結果について

「中学校給食に関するアンケート」集計結果

大磯町立中学校の昼食は、これまで家庭で作る弁当を基本に、子どもの健全な心と身体の成長を見守ってきましたが、社会状況の変化や食育の観点から、中学校給食の実施を求める声が挙がっています。

町教育委員会では、中学校給食の必要性や実施に向けての課題等を整理し、中学校給食のあり方について、検討を進めています。このたび、中学校給食のあるべき姿や実現に向けての方法など、広く町民の方々や児童・生徒、保護者の方々の声をお聞きし、検討に向けての参考とさせていただきたく、「中学校給食に関するアンケート」を実施しました。

ここにアンケート集計結果をまとめましたので報告します。

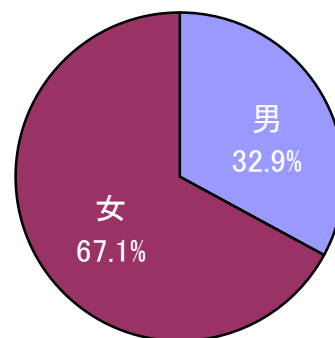
【調査方法】

- 調査期間：平成25年7月5日～7月22日
- 調査対象：町立中学校全生徒とその保護者・教職員
町立小学校6年生とその保護者、一般町民1,000人（無作為抽出）
- 調査・回収方法：各学校で配付・回収、（一般町民は郵送）、無記名回答方式
- 回収率・回答数：全体（67.0%・2,120）
生徒（97.2%・792）・保護者（72.0%・587）、中学校教職員（86.0%・49）
児童（96.6%・230）・保護者（66.4%・158）、一般町民（30.4%・304）

I 回答者のプロフィール

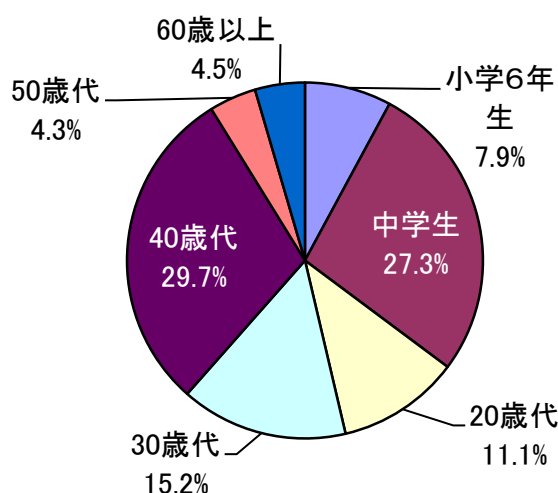
問 あなたの性別は【共通】

	回答数
<input type="checkbox"/> 男	690
<input type="checkbox"/> 女	1,406



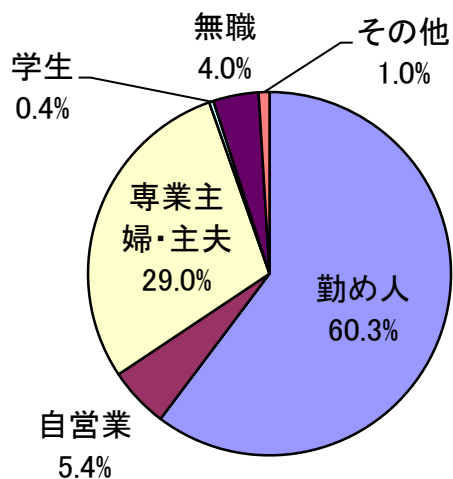
問 あなたの年齢は【共通】

	回答数
<input type="checkbox"/> 小学6年生	228
<input type="checkbox"/> 中学生	790
<input type="checkbox"/> 20歳代	322
<input type="checkbox"/> 30歳代	439
<input type="checkbox"/> 40歳代	858
<input type="checkbox"/> 50歳代	124
<input type="checkbox"/> 60歳以上	131



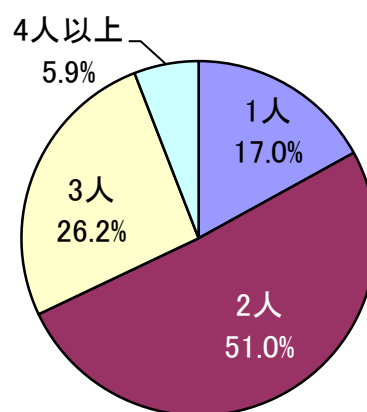
問 あなたの職業は【保護者・町民】

	回答数
<input type="checkbox"/> 勤め人	626
<input type="checkbox"/> 自営業	56
<input type="checkbox"/> 専業主婦・主夫	301
<input type="checkbox"/> 学生	4
<input type="checkbox"/> 無職	42
<input type="checkbox"/> その他	10



問 お子さんは何人いらっしゃいますか【保護者】

	回答数
<input type="checkbox"/> 1人	124
<input type="checkbox"/> 2人	372
<input type="checkbox"/> 3人	191
<input type="checkbox"/> 4人以上	43



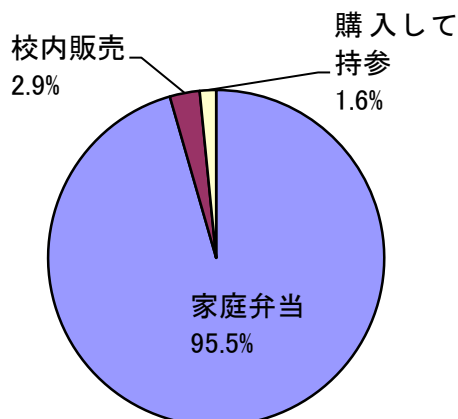
Ⅱ 現在の昼食の状況

【結果概要】

- ・生徒の95%以上が、毎日、家庭弁当を持参しているが、約5%の生徒は何らかの事情で昼食を購入している。
- ・弁当は約97%の家庭で家族が作り、自分で作っている生徒は2.4%である。
- ・弁当を作る時間は「あまりない」家庭が6割以上を占め、また5割以上の家庭で、弁当作りが大変だと感じている。
- ・弁当を作れなかった場合は5割以上の家庭が「購入して持参」。

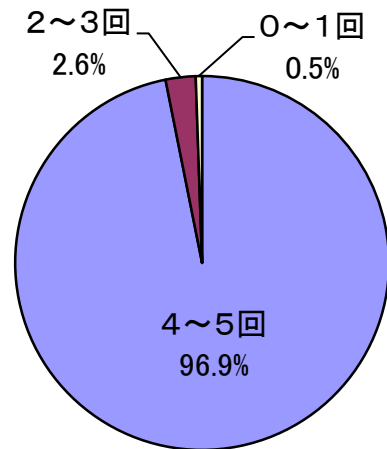
問 普段のお子さん(中学生)の昼食は【保護者】

	回答数
<input type="checkbox"/> 家庭弁当	729
<input type="checkbox"/> 校内販売	22
<input type="checkbox"/> 購入して持参	12



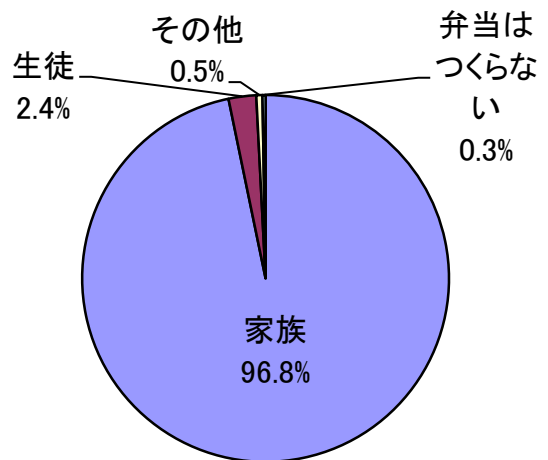
問 家庭弁当は週5日のうち何回くらいですか【保護者】

	回答数
<input type="checkbox"/> 4～5回	710
<input type="checkbox"/> 2～3回	19
<input type="checkbox"/> 0～1回	4



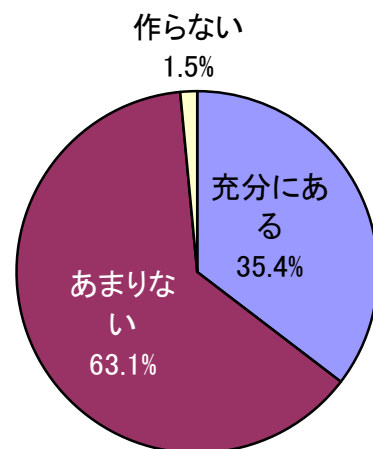
問 家庭弁当は主にどなたが作っていますか【保護者】

	回答数
<input type="checkbox"/> 家族	716
<input type="checkbox"/> 生徒	18
<input type="checkbox"/> その他	4
<input type="checkbox"/> 弁当はつくらない	2



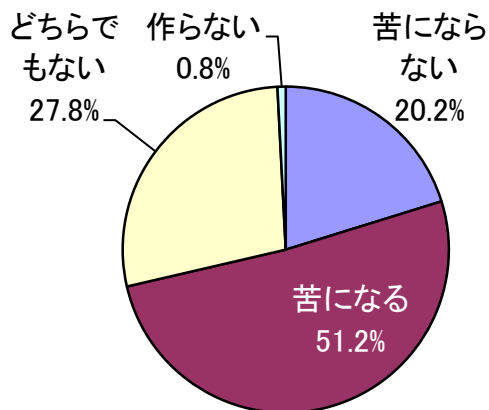
問 朝、弁当を作る時間について【保護者】

	回答数
<input type="checkbox"/> 充分にある	259
<input type="checkbox"/> あまりない	462
<input type="checkbox"/> 作らない	11



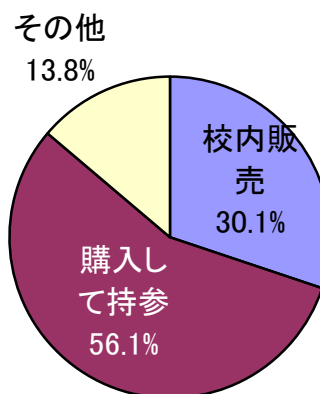
問 弁当を作るのは苦ですか【保護者】

	回答数
<input type="checkbox"/> 苦にならない	149
<input type="checkbox"/> 苦になる	377
<input type="checkbox"/> どちらでもない	205
<input type="checkbox"/> 作らない	6



問 弁当を作ることができないときどうしますか【保護者】

	回答数
<input type="checkbox"/> 校内販売	214
<input type="checkbox"/> 購入して持参	398
<input type="checkbox"/> その他	98



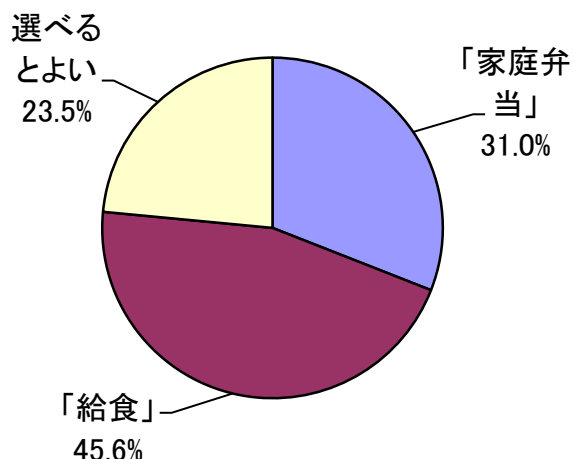
Ⅲ 今後の昼食のあり方

【結果概要】

- ・「給食がよい」が約半数を占め(45.6%)、次いで「家庭弁当」(31.0%)、「給食と弁当を選べるとよい」(23.5%)。
- ・回答者別としては、保護者と町民は「給食」が共にトップ、しかし、中学生と小学生、教職員は「弁当」がトップと逆の結果に。
- ・理由については、「家庭弁当」を選んだ回答者は、「量が調節できる」と「手作り弁当を食べさせたい(食べたい)」、「給食」では、「栄養バランス」と「温かい食事」が共に過半数を占め、「選べると良い」では「弁当を持ってこられないときがある」が約4割。

問 中学校の昼食としてどの方法がよいと思いますか【共通】

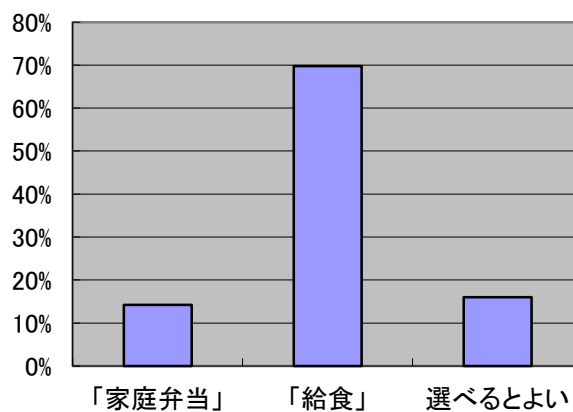
	回答数
<input type="checkbox"/> 今までどおり「家庭弁当」がよい	647
<input type="checkbox"/> 小学校のように「給食」がよい	952
<input type="checkbox"/> 「家庭弁当」と「給食」を選べるとよい	491



※回答者別

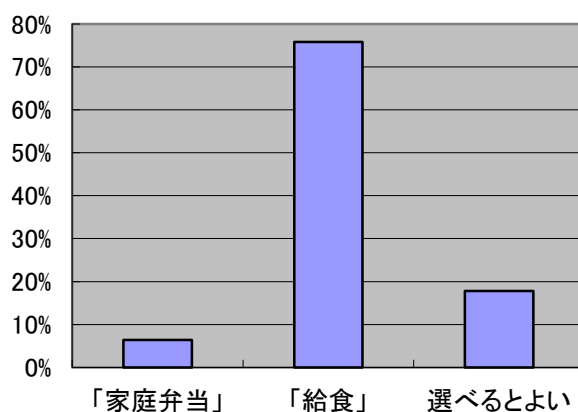
【中学生保護者】

「家庭弁当」 14.2%
「給食」 69.8%
「選べるとよい」 16.0%



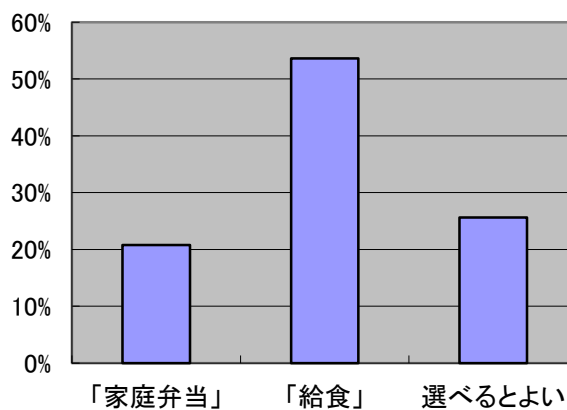
【小学生保護者】

「家庭弁当」 6.4%
「給食」 75.8%
「選べるとよい」 17.8%



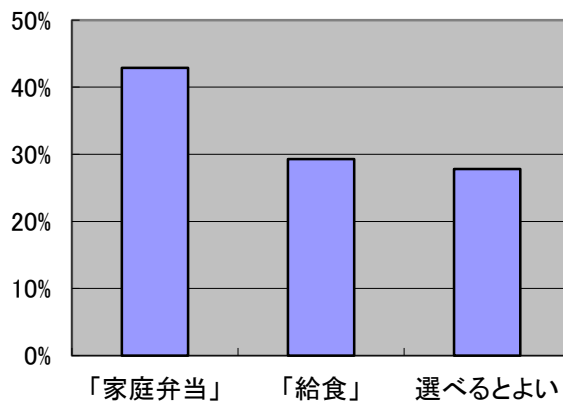
【町民】

「家庭弁当」 20.8%
「給食」 53.6%
「選べるとよい」 25.6%



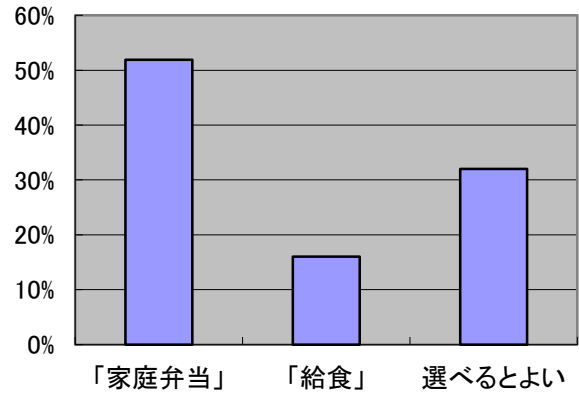
【中学生】

「家庭弁当」 42.9%
「給食」 29.3%
「選べるとよい」 27.8%



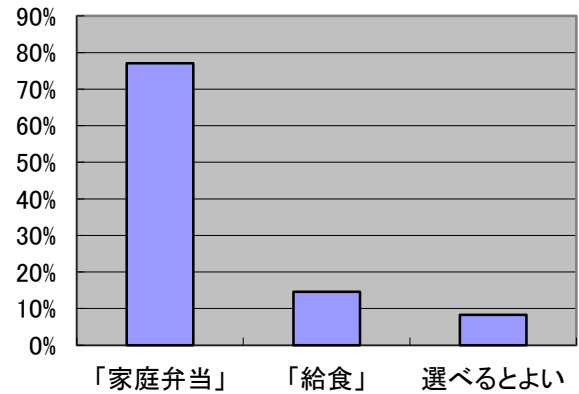
【小学生】

「家庭弁当」	51.9%
「給食」	16.0%
選べるとよい	32.0%



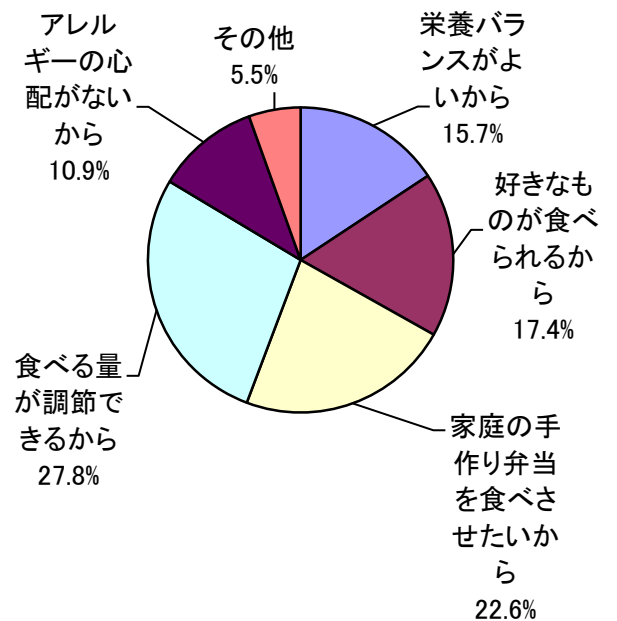
【中学校教職員】

「家庭弁当」	77.1%
「給食」	14.6%
選べるとよい	8.3%



問 「家庭弁当」と答えたのはなぜですか(複数回答可)【共通】

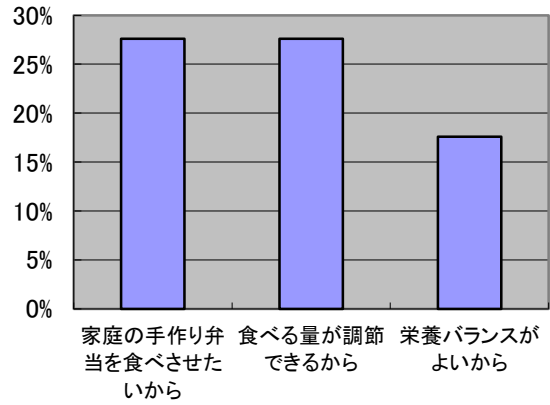
	回答数
<input type="checkbox"/> 栄養バランスがよいから	246
<input type="checkbox"/> 好きなものが食べられるから	273
<input type="checkbox"/> 家庭の手作り弁当を食べさせたいから	354
<input type="checkbox"/> 食べる量が調節できるから	436
<input type="checkbox"/> アレルギーの心配がないから	171
<input type="checkbox"/> その他	86



※回答者別(上位3位)

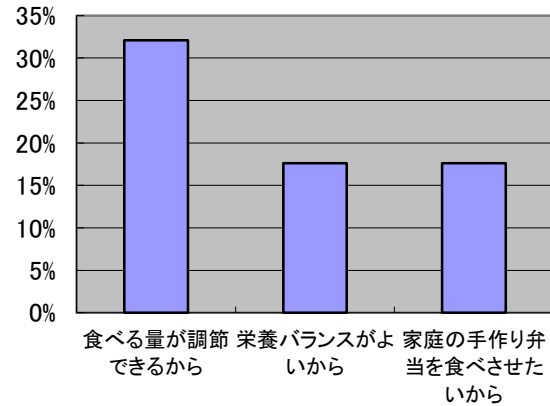
【中学生保護者】

家庭の手作り弁当を食べさせたいから	27.6%
食べる量が調節できるから	27.6%
栄養バランスがよいから	17.6%



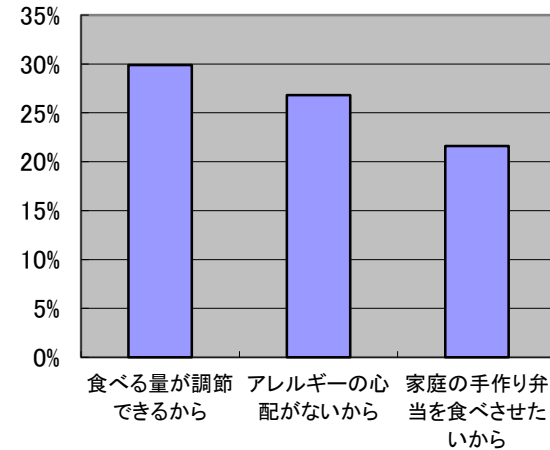
【小学生保護者】

食べる量が調節できるから	32.1%
栄養バランスがよいから	17.6%
家庭の手作り弁当を食べさせたいから	17.6%



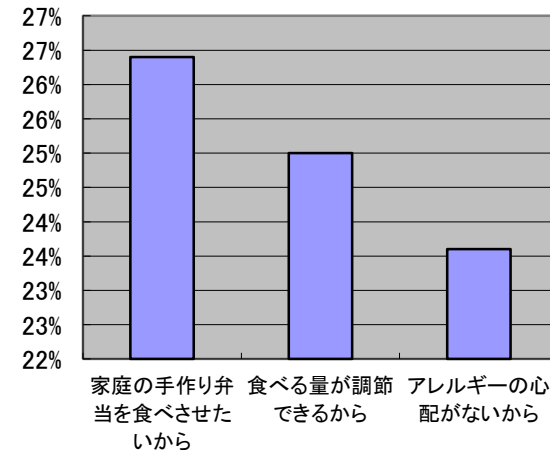
【中学校教職員】

食べる量が調節できるから	29.9%
アレルギーの心配がないから	26.8%
家庭の手作り弁当を食べさせたいから	21.6%



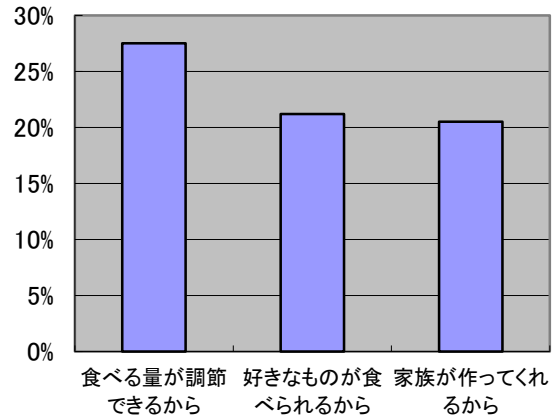
【町民】

家庭の手作り弁当を食べさせたいから	26.4%
食べる量が調節できるから	25.0%
アレルギーの心配がないから	23.6%



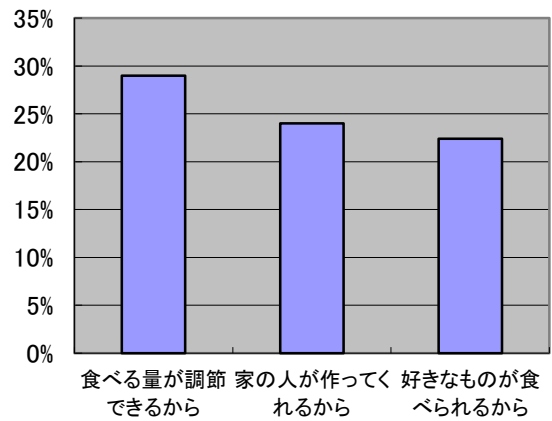
【中学生】

食べる量が調節できるから	27.5%
好きなものが食べられるから	21.2%
家族が作ってくれるから	20.5%



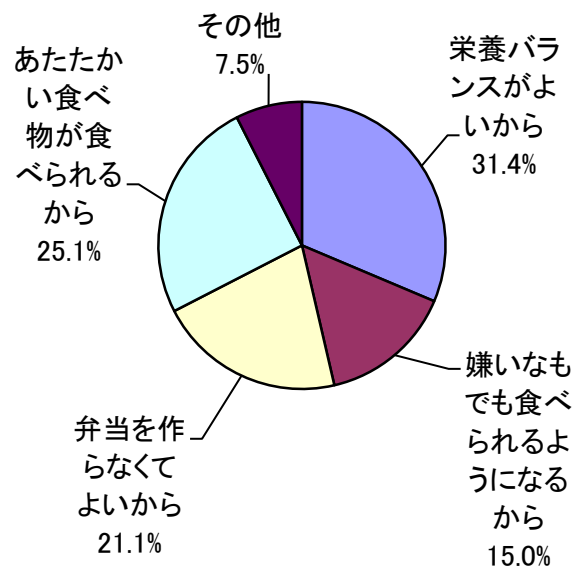
【小学生】

食べる量が調節できるから	29.0%
家の人が作ってくれるから	24.0%
好きなものが食べられるから	22.4%



問「給食」と答えたのはなぜですか(複数回答可)【共通】

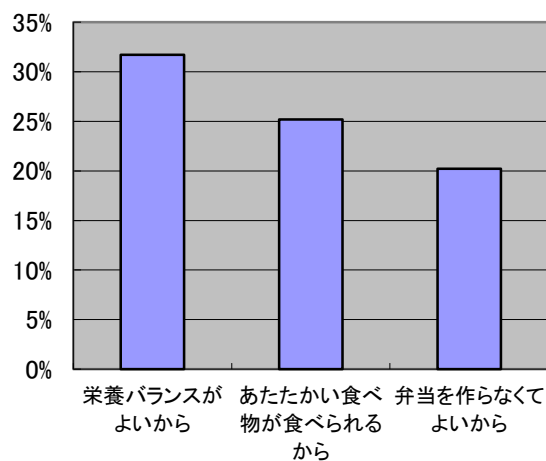
	回答数
<input type="checkbox"/> 栄養バランスがよいから	808
<input type="checkbox"/> 嫌いなものでも食べられるようになるから	387
<input type="checkbox"/> 弁当を作らなくてよいから	543
<input type="checkbox"/> あたたかい食べ物が食べられるから	646
<input type="checkbox"/> その他	193



※回答者別(上位3位)

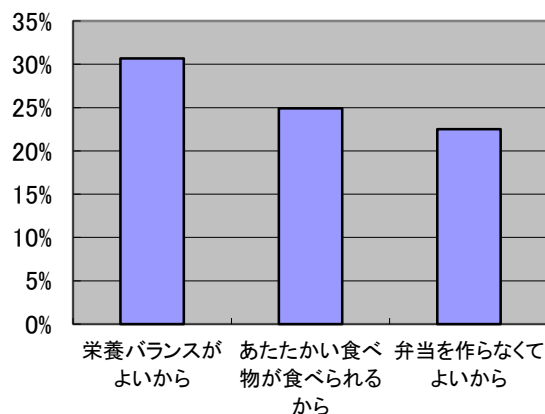
【中学生保護者】

栄養バランスがよいから 31.7%
 あたたかい食べ物が食べられるから 25.2%
 弁当を作らなくてよいから 20.2%



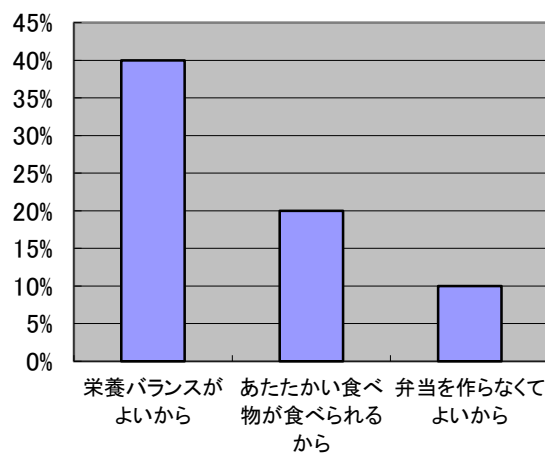
【小学生保護者】

栄養バランスがよいから 30.7%
 あたたかい食べ物が食べられるから 24.9%
 弁当を作らなくてよいから 22.5%



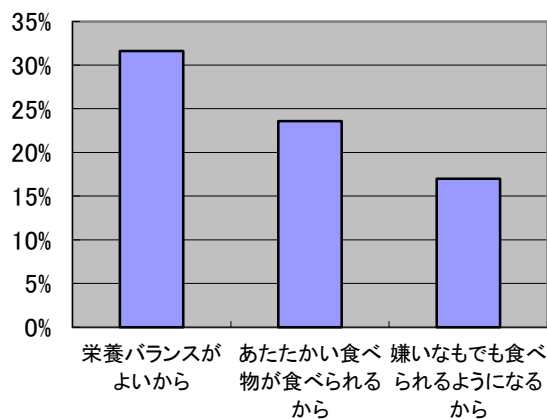
【中学校教職員】

栄養バランスがよいから 40.0%
 あたたかい食べ物が食べられるから 20.0%
 弁当を作らなくてよいから 10.0%



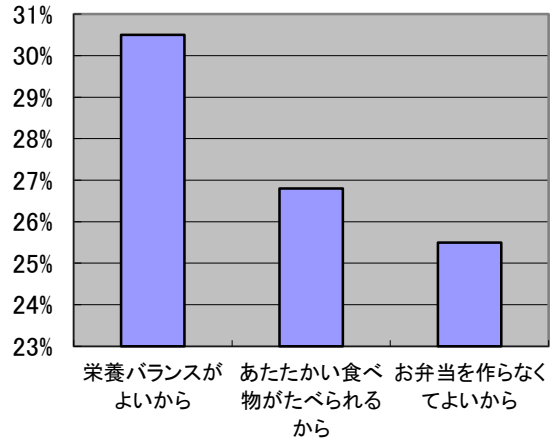
【町民】

栄養バランスがよいから 31.6%
 あたたかい食べ物が食べられるから 23.6%
 嫌いなものでも食べられるようになるから 17.0%



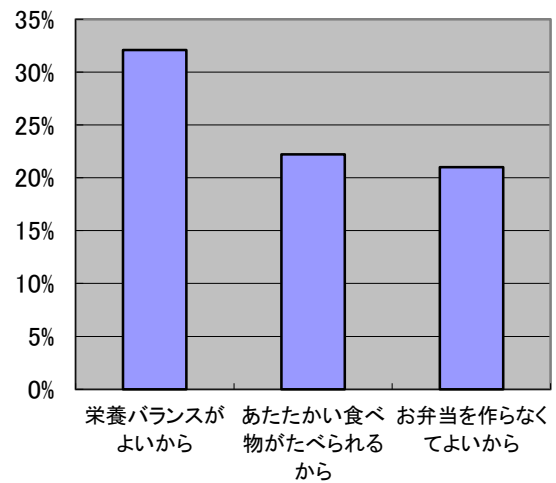
【中学生】

栄養バランスがよいから	30.5%
あたたかい食べ物がたべられるから	26.8%
お弁当を作らなくてよいから	25.5%



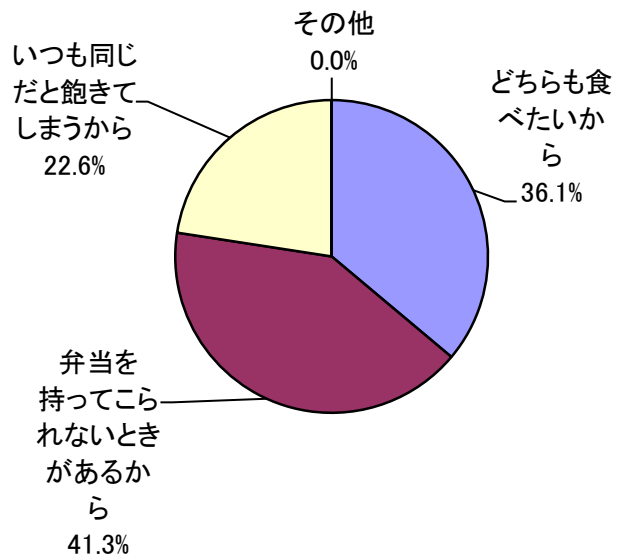
【小学生】

栄養バランスがよいから	32.1%
あたたかい食べ物がたべられるから	22.2%
お弁当を作らなくてよいから	21.0%



問 選べるとよいと答えたのはなぜですか(複数回答可)【共通】

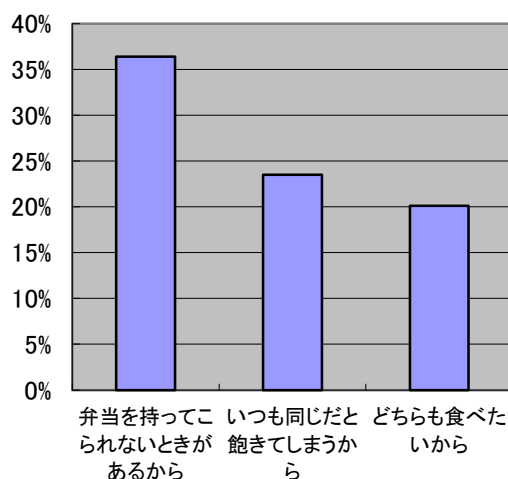
	回答数
<input type="checkbox"/> どちらも食べたいから	208
<input type="checkbox"/> 弁当を持ってこられないときがあるから	238
<input type="checkbox"/> いつも同じだと飽きてしまうから	130
<input type="checkbox"/> その他	



※回答者別(上位3位)

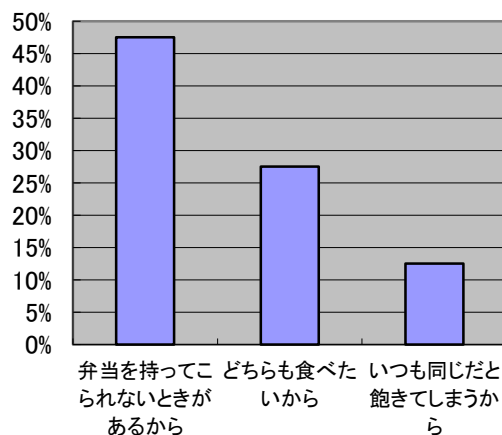
【中学生保護者】

弁当を持ってこられないときがあるから	36.4%
いつも同じだと飽きてしまうから	23.5%
どちらも食べたいから	20.1%



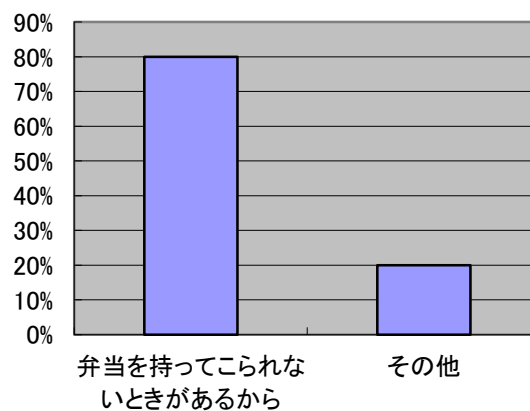
【小学生保護者】

弁当を持ってこられないときがあるから	47.5%
どちらも食べたいから	27.5%
いつも同じだと飽きてしまうから	12.5%



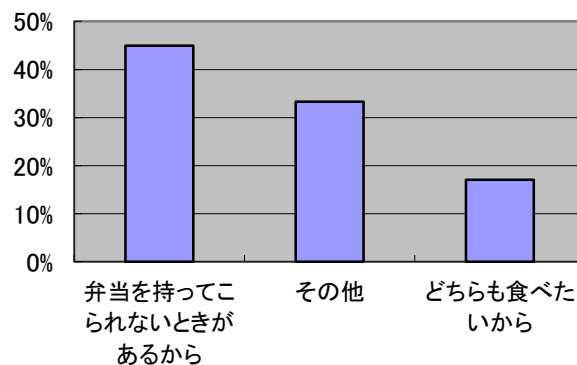
【中学校教職員】

弁当を持ってこられないときがあるから	80.0%
その他	20.0%



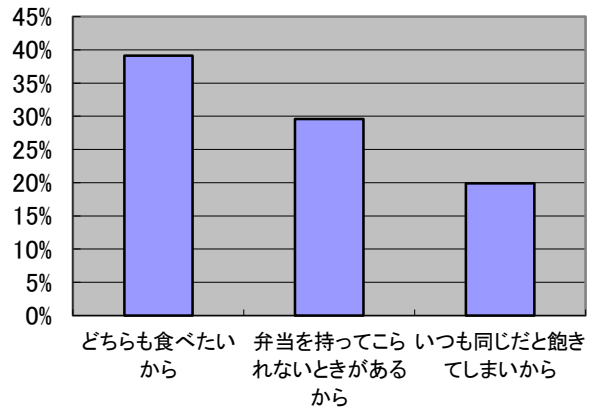
【町民】

弁当を持ってこられないときがあるから	45.0%
その他	33.3%
どちらも食べたいから	17.1%



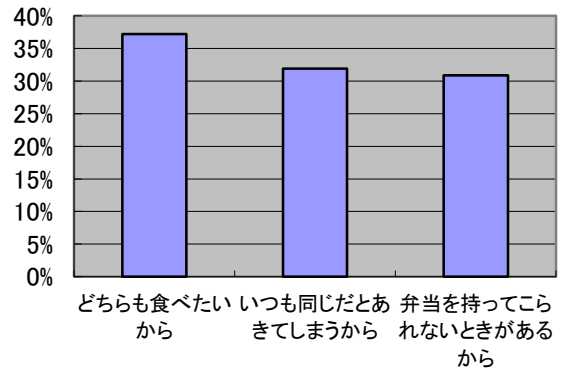
【中学生】

どちらも食べたいから	39.1%
弁当を持ってこれないときがあるから	29.6%
いつも同じだと飽きてしまいから	19.9%



【小学生】

どちらも食べたいから	37.2%
いつも同じだとあきてしまうから	31.9%
弁当を持ってこれないときがあるから	30.9%



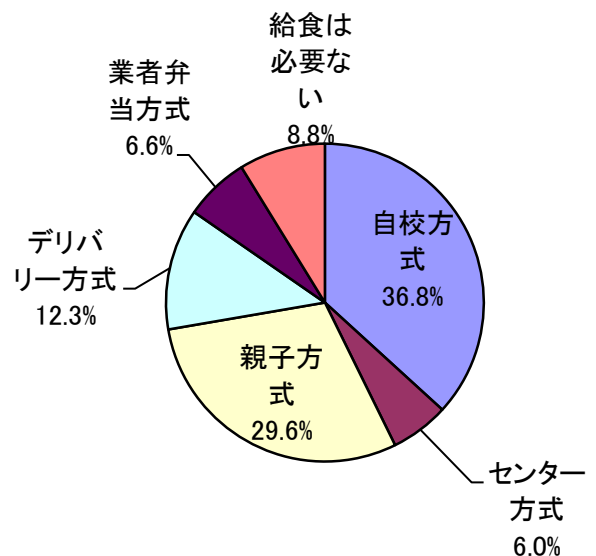
IV 中学校給食の方式と実施

【結果概要】

- ・給食の方式については、「自校方式」と「親子方式」が6割以上を占め、次いで「デリバリー方式」(12.3%)、「給食は必要ない」(8.8%)。
- ・給食を導入する場合の時期については、「早急に導入すべき」が約4割を占め、次いで「財政の許す範囲で」(27.6%)、「将来的に導入を」(21.2%)。
- ・給食導入によるカリキュラム等の影響については、「大きな課題ではない」が約8割を占めた。

問 中学校給食を導入する場合どの方式が最もよいと思いますか【保護者・教職員・町民】

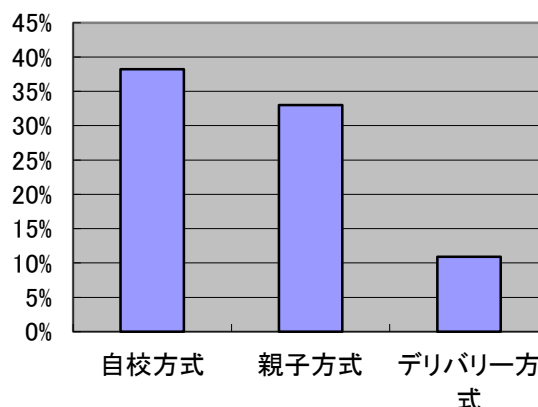
	回答数
<input type="checkbox"/> 自校方式	414
<input type="checkbox"/> センター方式	67
<input type="checkbox"/> 親子方式	333
<input type="checkbox"/> デリバリー方式	139
<input type="checkbox"/> 業者弁当方式	74
<input type="checkbox"/> 給食は必要ない	99



※回答者別(上位3位)

【中学生保護者】

自校方式	38.2%
親子方式	33.0%
デリバリー方式	10.9%



中学生保護者

●自校方式を選んだ理由は…

・「温かい食事」「栄養バランスがよい」「小学校と同じなので作り手の顔が見えて安心」「食中毒の心配がなくなる」という意見が多く寄せられました。

・「災害時の炊き出しに利用できる」や「別方式のように給食の配送が不要なので時短になる」といった意見もありました。

○コメント

※災害時にも炊き出しで使用できる。費用も妥当な金額。東京では自校で作るが業者に委託してコストを下げていた。中学生の食生活が体を作るのに多大な影響があるのでお昼は色々な食材のものを使える給食がよい。

※アレルギー対応が可能であり、きめ細かな給食が期待される。調理員さんたちが身近なところにおいて、家庭的、感謝を子どもたちも表しやすい。

※夏はお弁当がいたみやすく部活朝練があるととても気を使う。今まで給食で慣れていたので、冷たいご飯や栄養面でもマイナスな部分があると思う。家庭の事情でお弁当を作るのが大変!!

●親子方式を選んだ理由は…

・自校方式同様に「温かい」「アレルギー対応もできる」「栄養バランスがよい」や、「小・中学校が近く効率的に配送が出来る」「自校方式やセンター方式に対比較的に安く導入できる」という意見が多く寄せられました。

・「小学校と中学校に兄弟姉妹がいるので、同じ献立だと夕食メニューが考えやすい」という意見もありました。

○コメント

※親子を選んだのは、同じメニューを子供達が食べれるという事。昼食の話題が共通である事も家族の会話の1つ。親子にする事によって配達等の手間は増えますが、既存施設を整備する事により、小学校の給食室を充実する事も可能だと思います。給食なら、あたたかい物、冷たい物、汁物とお弁当ではかなえられない食事が出来、バラエティに富み、食育の上でも良いと思います。

●デリバリー方式を選んだ理由は…

・「栄養バランス」「財政負担も軽い」「早期に導入が出来る」という意見が多く寄せられました。

・「弁当との選択もでき、地元業者が請け負えば地元が潤う」といった意見もありました。

○コメント

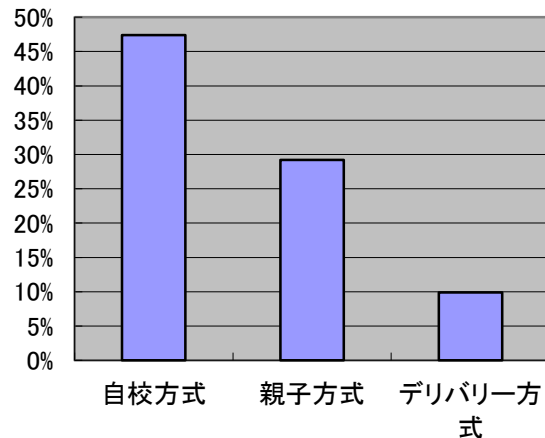
※給食費未払いの問題もふまえて弁当か給食を選ぶことができるのが望ましい。中学生は体をつくる大事な時期なので栄養バランスにも重点を置いて検討すべき。子供の事を第一に考えていただきたい。

※地方の自治体で、町の農家の方との連携関係を結び、野菜を廃棄せずに給食の材料として使い、お互いに無駄にせず、コストダウンをはかるなど有益にまわしていた。考え方ひとつで、お互いに幸せな思いが生まれるんだと思う。

※施設整備費、年間維持管理費が少なくすむ。まずはデリバリーでやってみた方がいいと思う。

【小学生保護者】

自校方式	47.4%
親子方式	29.2%
デリバリー方式	9.9%



小学生保護者

●自校方式を選んだ理由は・・・

・「温かい食事」「栄養バランスがよい」「小学校と同じなので安心」「作り手の顔が見える」「食中毒の心配がないので安心」という意見が多く寄せられました。

・「災害時の炊き出しに利用できる」や「配膳や片付けも大変さが分かる点で大切」といった意見もありました。

○コメント

※小学校の給食はとてもおいしい、と子どもたちが大好きです。毎日給食を楽しみにしています。皆が同じものを一緒に食べることも良いことだと思います。

※もし、可能なら自校で作っていただき食べることが生徒にとって身近であり大変さ、大切さがわかるのではないのでしょうか。

※自校の方が作ってすぐ食べられるので食中毒などの心配が少ないと思うから。

●親子方式を選んだ理由は・・・

・「既存施設を活用できるので自校方式よりも経済的」という意見が多く寄せられました。

○コメント

※施設整備費と年間維持管理費を合わせて一番金額が少ないところで現実的と考えた。金額的な面で考えないならば自校方式が一番良いと思います。

※温かい食事とアレルギー対応もでき何より今の学校給食に満足しているので安心できる。

●デリバリー方式を選んだ理由は・・・

・「栄養バランス」「財政負担も軽い」「早期に導入が出来るから」といった意見が多く寄せられました。

・「配膳時間が短くすむ」や「民間活用で活性化する」といった意見もありました。

○コメント

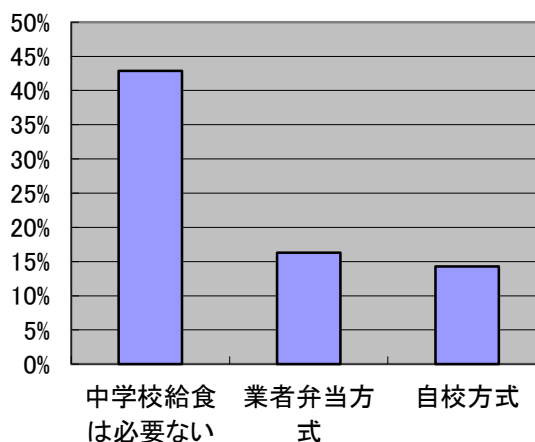
※早い導入を望む。一番現実的。温かい食事は弁当でも無理だしアレルギーの子は弁当でもいい。

※理想は「自校」「親子」なのだが費用を考えるとデリバリーが導入しやすいと思ったため。

※施設整備費がかからず、民間業者の雇用も増えて景気にもつながる。弁当を作るのは負担であるため。

【中学校教職員】

中学校給食は必要ない	42.9%
業者弁当方式	16.3%
自校方式	14.3%



中学校教職員

●「中学校給食は必要ない」を選んだ理由は・・・

・「学校施設整備に予算を使うべき」「学校活動への影響が大きい」「家族弁当の良さを感じて欲しい」などの意見がありました。

○コメント

※子どもの成長に個人差があり、分量にばらつきが出ることや、施設設備にかかる予算を考えると、保護者に頑張って作ってもらいたい。

※財源が不十分であると考えため、教育予算はもっと生きる形（今不十分なものをそろえる、修繕する）で使っていただきたい。

※生徒が保護者に感謝できる場面としてお弁当を考えているから。

●「業者弁当方式」を選んだ理由は・・・

・「経費がかからないから」「学校活動への影響が少ない」などの意見がありました。

○コメント

※食物アレルギーのある生徒にとっては、課題が残るが、カリキュラムや予算の面で一番現実的だと思うので。

※町で予算計上し、それ相応の設備を整えようとするとかかなりの負担があり、実現までに時間と経費、労力等がかかりすぎるから。

●「自校方式」を選んだ理由は・・・

・「生徒みんなが同じものを食べられる」「温かい食事ができる」などの意見がありました。

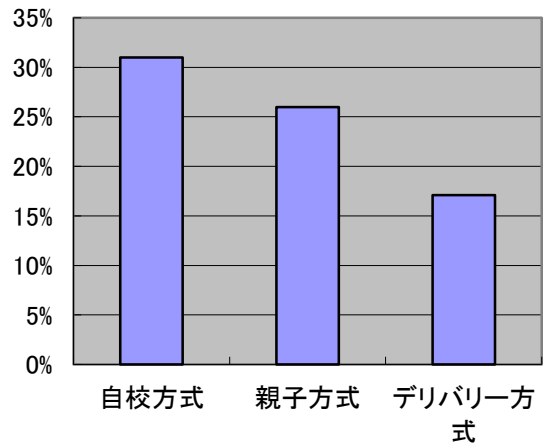
○コメント

※温かい物が食べられる。話題が共通になる。生徒によっては買ってくるコンビニ弁当ではかわいそうである。

※輸送に時間や手間がかかるのが少ないので温かい物を生徒が食べることができるから。

【町民】

自校方式	31.0%
親子方式	26.0%
デリバリー方式	17.1%



町民

●「自校方式」を選んだ理由は・・・

・「温かい食事」「栄養バランスが良い」「作る人の顔が見えるので安心」といった意見が多く寄せられました。

○コメント

※温かいものがそのまま食べられる。作る人の顔がわかる安心感と感謝の気持ちを持てる。

※大事な成長期には、自校で作ることで安心、安全、美味しく栄養バランスのとれた物が必要だと思うから。子どもは小学校での給食が大好きです。試食会で頂きましたが、とてもおいしいです。是非中学校でも給食を作ってほしい。

※衛生面等（特に夏場）を考え、自校でつくり、すぐ食べられるほうが良いと思います。（栄養バランスもよく、食育につながる）暑い時期にお弁当を持たせるのは不安です。

●「親子方式」を選んだ理由は・・・

・「自校方式より少ない予算でできる」「近いので効率的」といった意見が多く寄せられました。

○コメント

※現在の小学校給食に満足している。アレルギー対応可能、効率的運営が小さな町なので良いと思っていた。

※小さな町なので、センターと学校との距離は短い。小学校で作るとしたら、小学校と中学校は近いので、町に2つのセンターがある感じになる。用地を新しく探すのは大変かと思う。

※早急に給食にすべきと思うが経費が係りすぎる。現在の施設を利用しながら栄養バランスよく、温かい食事が食べられることが大事だと思う。

●「デリバリー方式」を選んだ理由は・・・

・「早期導入が可能」「予算が比較的安価」「栄養バランスがよい」といった意見が多く寄せられました。

○コメント

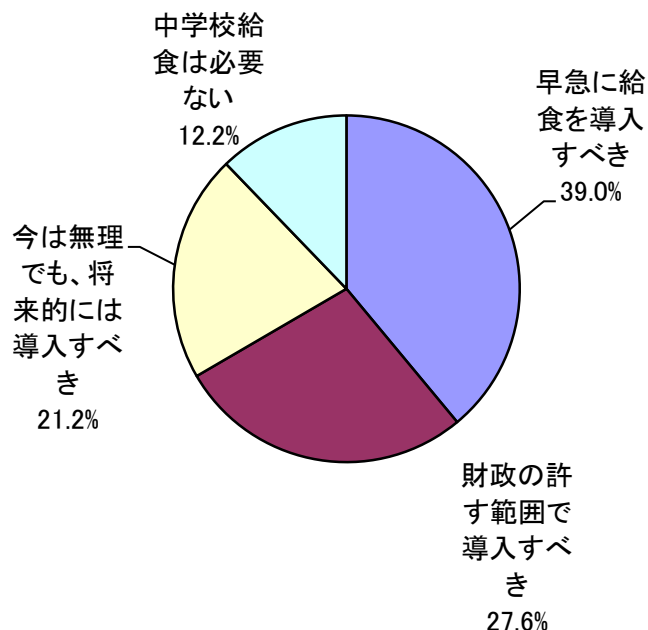
※栄養バランスが良い上に、費用が安くすむから。

※町予算を考慮すれば施設投資経費及び経常経費に多大な費用を要せず、弁当と給食の併用することによって、アレルギー問題や、保温設備の確保により、より温かい給食を提供することは可能。

※税金使用において適正だと思う金額、将来の児童人数の増減に対応しやすい。

問 中学校給食を導入する場合の時期について【保護者・中学校教職員・町民】

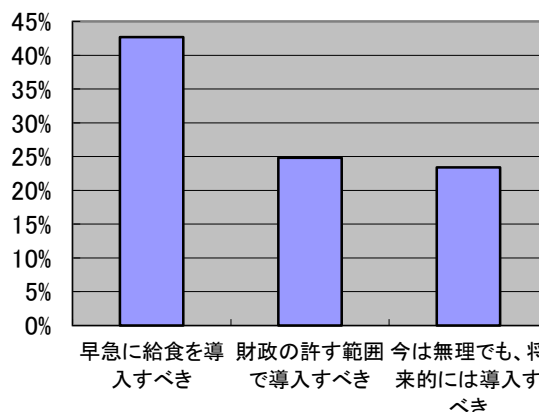
	回答数
<input type="checkbox"/> 早急に給食を導入すべき	399
<input type="checkbox"/> 財政の許す範囲で導入すべき	283
<input type="checkbox"/> 今は無理でも、将来的には導入すべき	217
<input type="checkbox"/> 中学校給食は必要ない	125



※回答者別(上位3位)

【中学生保護者】

早急に給食を導入すべき	42.7%
財政の許す範囲で導入すべき	24.8%
今は無理でも、将来的には導入すべき	23.4%



中学生保護者

●「早急に給食を導入すべき」を選んだ理由は・・・

・「家庭の負担軽減のため」「食中毒など衛生面」「やるなら早く」といった意見が多く寄せられました。

○コメント

※冷凍食品や保冷剤をフルに使い、食中毒防止に努めていますが、栄養バランス、食育の観点から、子供、学校（先生方）互いに必要と考えます。

※“中学がお弁当”という大変驚かれます。“検討”は集中的に、時間的制約（＝期限）を設定しないと、結論を本気で導くことは難しいと思います。早急に対応していただきたいと思ます。

※結局、何年も前から給食の必要性は語られてきて、これからどんどん、女性の社会進出また家庭においても親世帯の高齢化で、負担がふえるから、朝のお弁当作りがなくなれば、時間的、精神的な余裕ができると思います。

●「財政の許す範囲で」を選んだ理由は・・・

・「財政を考えて検討を」「無理して実施する必要はない」「他に使うべき予算がある」といった意見が多く寄せられました。

○コメント

※早急にできればそれにこした事はないがお金がかかる事なのでそのあたりは財政の許す範囲でとしか言いようがない。

※町の行財政の上で、中学校の給食導入より優先させるべき課題があると思われるので。
 ※次の世代に借金を作ってまで、給食を導入する必要はない。

●「将来的に導入すべき」を選んだ理由は・・・

・「時間をかけて充分検討を」「財政が厳しいから」などの意見が多く寄せられました。

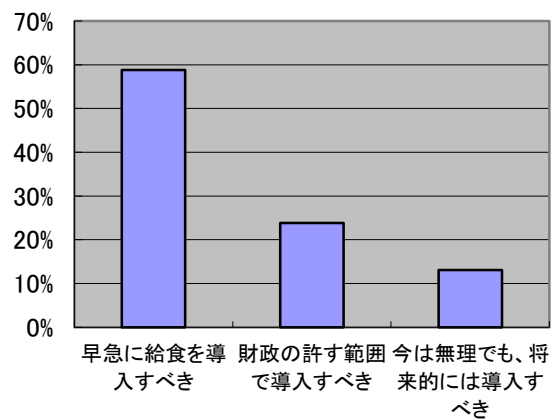
○コメント

※・早急にする必要はないと思う。財政面で、今は難しいのかなと思う。

※財政や色々な事を考えるとすぐには無理があると思う。すぐに始めていい方向に進めばいいが…じっくりと煮つめていってほしいと思います。

【小学生保護者】

早急に給食を導入すべき	58.8%
財政の許す範囲で導入すべき	23.8%
今は無理でも、将来的には導入すべき	13.1%



小学生保護者

●「早急に給食を導入すべき」を選んだ理由は・・・

・「家庭の負担軽減のため」「栄養バランス」「食中毒など衛生面」などの意見が多く寄せられました。

○コメント

※自分の子どもが中学生になるということも大きいですが、子どもが高学年になり働く母親も増加しているので給食がないというのは働く時間等にも影響が出る。夏の暑さで弁当持参は食中毒などが怖い

※今は働いている親も多く朝お弁当を作るのは大変ですし栄養バランスも整っているので助かる。夏などは例年にない暑さも続きお弁当も痛みやすく心配なので早めにして欲しい

※成長中の子どもには栄養バランスの良い食事が必要なため

●「財政の許す範囲で」を選んだ理由は・・・

・「優先度は低い」などの意見が多く寄せられました。

○コメント

※大磯町は小さな町な上にお年寄りが多く財政面では毎年厳しいと聞いています。中学の給食を優先することで他の事業等に影響が出てしまうのはどうかなと思います

※何が何でも早急にではなく、財政に余裕があるなら防災設備の充実、最優先に考えてもらいたい。その次でも良い。

●「将来的に導入すべき」を選んだ理由は・・・

・「赤字にしてまでやる必要はない」などの意見が寄せられました。

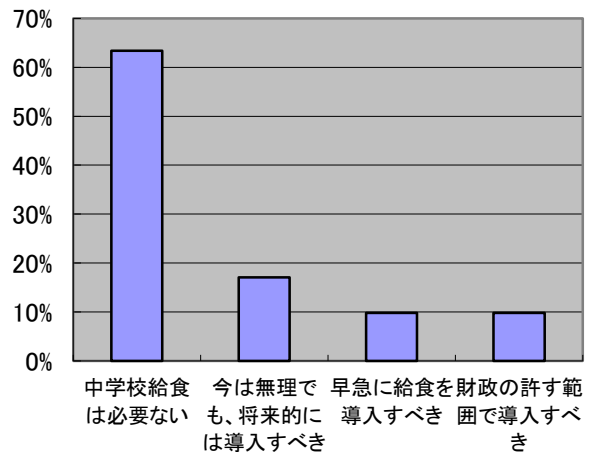
○コメント

※中学校給食を望む声が多数あるなら検討して欲しいと思います。今すぐは無理でしょうが近い将来導入できたらいいと思います

※赤字にしてまで考えていなので

【中学校教職員】

中学校給食は必要ない	63.4%
今は無理でも、将来的には導入すべき	17.1%
早急に給食を導入すべき	9.8%
財政の許す範囲で導入すべき	9.8%



中学校教職員

●「中学校給食は必要ない」を選んだ理由は・・・

・「他に使うべき予算がある」「家庭とのつながりを大切に」などの意見が寄せられました。

○コメント

※教育（学校教育）に町のお金はもっとまわしてほしいです。老朽化した備品や設備、施設のメンテナンスや新たな購入を素早く行えるようにしていただきたいです。

※家庭内のつながりを大切にしていきたい。何でもお金を出して解決するのは良くないと思います。

※中学生は自立へ向かって、様々なことを学んでいます。その1つとして自分の健康管理や栄養管理を行うことも訓練です。給食にしてしまうと、その機会もなくなってしまうので、今まで以上に生きていく力が付きにくくなってしまったからです。

●「将来的に導入すべき」を選んだ理由は・・・

○コメント

※財政的な課題があると考えます。

※お弁当はとても素晴らしいものですが、自分も子どもの弁当を作って、共働きの中大変でした。安い給食が食べられれば、親は楽になると思います。

●「早急に給食を導入すべき」を選んだ理由は・・・

○コメント

※「お弁当の利点があまり感じられないので」

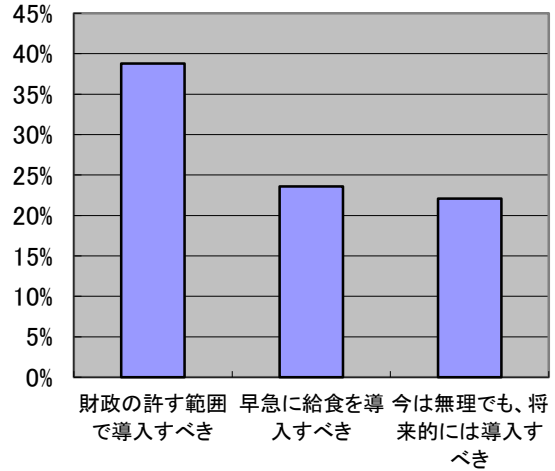
●「財政の許す範囲で」を選んだ理由は・・・

○コメント

※「資金が無いことには始まらないので。」

【町民】

財政の許す範囲で導入すべき	38.8%
早急に給食を導入すべき	23.6%
今は無理でも、将来的には導入すべき	22.1%



町民

●「財政の許す範囲で」を選んだ理由は・・・

・「他に優先すべきものがある」「できる範囲でいい」などの意見が多く寄せられました。

○コメント

※給食はあった方が母子共に良いと思うが、財政が大変なのでそこを考えてほしい。

※町の財政に余裕があればなんでもやってあげて欲しいと思いますが、優先順位を考えて導入してほしいです。中学校給食のために本当に必要な部分がおろそかになる可能性もあるかと思っていますので。

●「早急に給食を導入すべき」を選んだ理由は・・・

・「家庭の負担軽減を」「やるなら早く」などの意見が多く寄せられました。

○コメント

※働いている親が急増しているのでコンビニなどでお弁当を買う子が多いと思います。好きな物だけで済ませるのではなく栄養のバランスが良く温かいものはより温かく、冷たい物や季節感のある物を子ども達の食べさせてあげたい。

※やると決まれば早く実施すべき

●「将来的に導入すべき」を選んだ理由は・・・

・「時間をかけて検討を」などの意見が多く寄せられました。

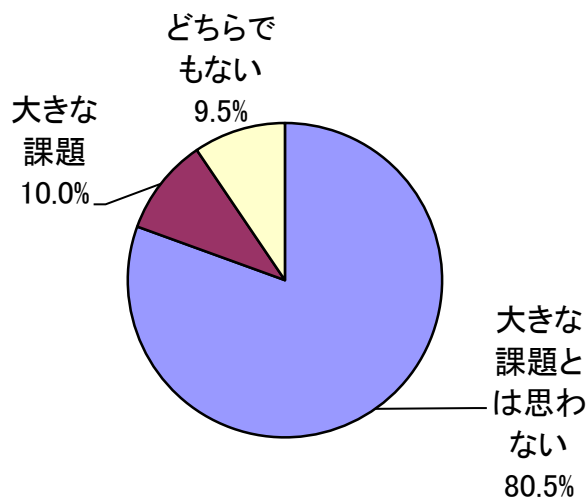
○コメント

※財政的、内容的な問題をきちんと検討するにはある程度の期間が必要。

※課題をクリアするには時間がかかると思う。しかし、近い将来、給食が食べられるようになるならば保護者としては、何でも協力したい。本音は早急に導入してもらいたい気持ちもある。

問 教育カリキュラムや課外活動などに影響は【保護者・教職員・中学生】

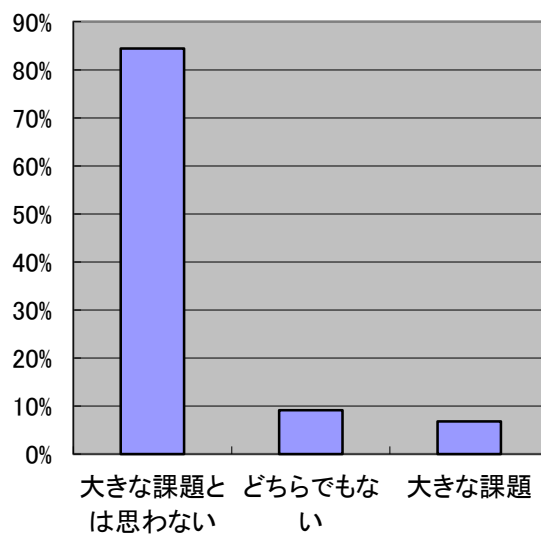
	回答数
<input type="checkbox"/> 大きな課題とは思わない	629
<input type="checkbox"/> 大きな課題	78
<input type="checkbox"/> どちらでもない	74



※回答者別(上位3位)

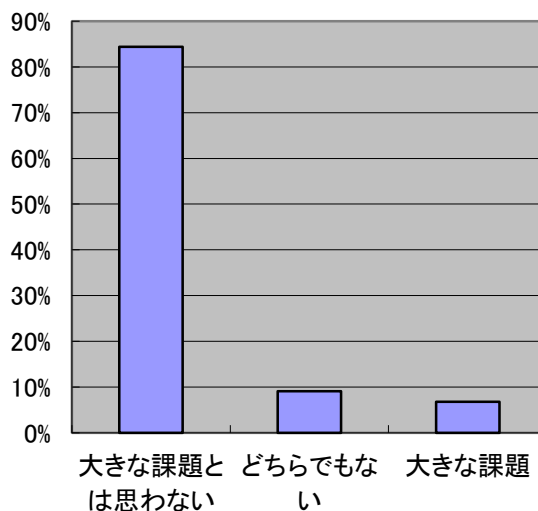
【中学生保護者】

大きな課題とは思わない	84.4%
どちらでもない	9.1%
大きな課題	6.8%



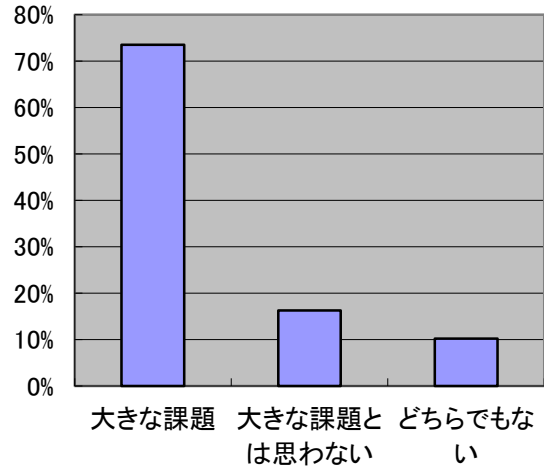
【小学生保護者】

大きな課題とは思わない	87.3%
どちらでもない	10.8%
大きな課題	1.9%



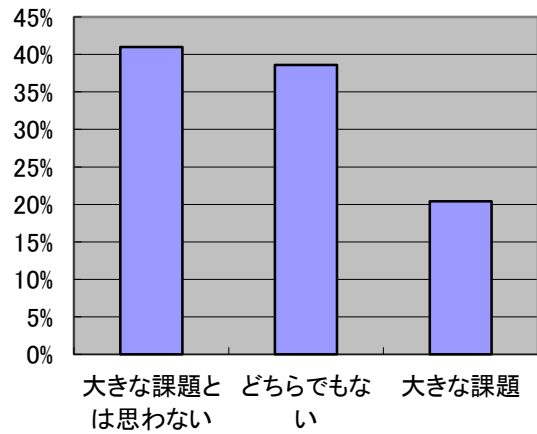
【教職員】

大きな課題	73.5%
大きな課題とは思わない	16.3%
どちらでもない	10.2%



【中学生】

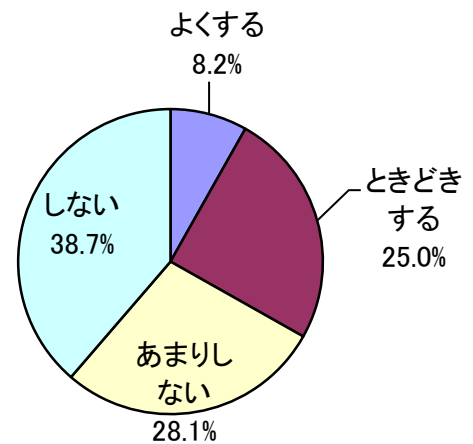
大きな課題とは思わない	41.0%
どちらでもない	38.6%
大きな課題	20.4%



V その他

問 食事や弁当を作るとき手伝いをしますか【中学生・小学生】

	回答数
<input type="checkbox"/> よくする	83
<input type="checkbox"/> ときどきする	254
<input type="checkbox"/> あまりしない	286
<input type="checkbox"/> しない	393



家庭弁当が良いと思う方々

<中学生保護者>

- 中学校給食は子どもによっては食べる量も大きく差が出てきます。量を調節できるお弁当が一番いいのではないかと思います。朝作るのは大変だと思いますが親としていい思い出になるのも一つです。中学生とのコミュニケーションの一つとしてもお弁当は大切です。是非、このまま、お弁当にしてほしいです。給食の残飯の処理も考えものですし。課題が多すぎると感じます。
- こどものためならやっぱり親が作るのが当たり前だと思います。親が仕事で忙しいのはわかりますが、子どものためだったら頑張って作ってあげるのが当たり前だと思うのですが・・・
- 朝の準備が大変だと思うこともありましたが、工夫次第でどうにかなってきました。全部食べきって子どもから「おいしかった」と言われるのがまたうれしさでもあります。給食は楽ではあるけれど、なければ作れないと思います。ただ、お弁当のない子どものことを考えると、少しでも早く体制が整うと良いだろうと思います。
- 「何人かのお子さんが自分でお弁当を作ってきている」と子供から聞いた事があります。きっとそのお子さんは将来自立心も強く、立派な大人に間違いなくなれるでしょう。また、親にお弁当を作ってもらっている子供も弁当箱を洗いながら親に感謝していることと思います。

<小学生保護者>

- 確かに働くお母さんが増え、朝のお弁当作りは大変かもしれませんが、子どもに関わるのもあと少し、そう思えば頑張れるはず！3年間なんてあっという間ですよ！我が子の為に頑張ります！
- 娘二人います。確かに作るに大変なときもありますが、女の子は個人差がかなりあると思います。給食には向いていません。

<町民>

- 子育ては親がすべき。何もかも社会に頼りすぎ、そのため子ども達は親の面倒を見なくなる。子どもに愛情弁当を作れば、その愛が必ず親に返ってくるはず。親はそのために愛を・・・
- 学校給食制度の目的はなんですか。制度開始時より近年の目的の違いはあるのか。「食は基本」重要なこと。栄養バランス、カロリーだけの問題ではないと考えます。「食」を通し、「心身の健康」「家族関係」「親」から「子」「子から孫」へと。
- 大磯町にお金があるなら導入してほしいけど、他にもやらなければいけないこともあると思うので何とも言えない。もっと震災に関することを優先してからでも遅くないと思った。

<中学生>

- 家族が作ったお弁当の方がおいしいので、お弁当がいい。
- 給食だとアレルギーがある食べ物がある人が食べてしまい、アレルギーが出てしまうと思うので給食は嫌です。
- 私は給食よりお弁当の方が良いと思います。栄養バランスがよくとれるし、食べれなくなったら家族に言えば量を調整できるからです。
- 給食だと家庭としては便利だが、家族と関わる人が多いという点では弁当が良いと思う。また、残す事や、あきる事もないと思う。
- 給食の場合だと、配膳・片付けに時間がかかってしまったり、食べる量を調整できない。
- 給食は良いけど自分的に何が入っているかなとワクワク感のある弁当の方が楽しみができて良いと思います。
- おいしくない給食は食べない人も多くなり、残飯も多くなる。残飯が多くなると処分するのに大変でお金がかかると思う。
- 食べるのに配膳などの時間がかかり、また、長い時間かけて自由に食べられる、弁当が良いです。
- 親には大変かもしれないが、配膳などの時間を考えると弁当の方が良い。

- そんな金あるの？
- 給食よりも、もっと他の設備にお金をかけてほしい。

<小学生>

- せっかく中一になったら弁当になるのに同じ給食だと少しがっかりします。
- 給食は、嫌いなもの、好きなものもあるけど、家の人の方が野菜を細かくきざんで入れたり、自分の好きな栄養がとれるように工夫してくれるから。
- バイキングで、ドリンクバーもついて、高級料理がいい。
- 給食は栄養バランスは良いけど、給食は量の調節ができない（量が多い）。
- お母さんが作ってくれるお弁当の方がおいしい！自分が食べたいと思ったのをちゃんと用意してくれるからお弁当の方が絶対にいい！
- 給食はみんなと楽しく食べられるけど、やっぱりお家の人を作ってくれた方が、愛情があるなあと感じます。もし家の人を作るのが大変なら、自分でも作れるし、それが勉強になると思います。だから、何が何でも「お弁当」がいいですっ！
- 小学校と違う風にしたかったので、弁当が良いです！中学生になった気が高まる！自由な雰囲気がある方がいい！
- 給食は、好きな食べものでも味が違ったりしてあまりおいしくない。量が多い。6年間ずっと給食だったので、お弁当が食べたいです。

<教職員>

- 保護者も忙しいとは思いますが我が子のために3年間は頑張ってお弁当を作ってもらいたい。町の予算も大変な状況の中でとても実現は難しいと思う。
- 中学校給食は早急に行うべきものではないと思います。学校給食用の予算があるならば他に使う所があるのではないかと思います。保護者への負担は大きいと思いますが、中学生なので、自分で作るということに挑戦してほしいと思います。
- 他校では、給食でとにかくせわしない食事でした。配膳、片付けの時間を引くと10分くらいで食事する感じ。今、昼休みがゆったりしていて、生徒も外で楽しく遊んでいる現状を見ると、休み時間を短くしてまで、給食にする必要を感じない。
- 地域、保護者へのお弁当教室、食事など啓発活動に力を入れ、頑張ってお弁当作りの良さを伝えてください。給食施設など、新たな施設を作るよりも、現在ある施設の補修、更新など教育費の充実を望みます。

給食の導入を望む方々

<中学生保護者>

- もう何年も前から給食について話題にはなっているのに、いまだにアンケートの状態なのでしょう？大磯町にお金がないのはわかりますが、中学校に給食がないのは働いて税金も納めているのにあんまりです。二宮の給食センターを見ると羨ましいです。早くなんとかして下さい。
- 配膳・片付けに時間がかかる・・・と前ページにあります。時間配分すればいいだけのことです。配膳・片付けも教育・しつけだと思います。
- 小学校のように教室で食べるのではなく、カフェテリア方式でもいいかと思う。教室で食べるのではなく食べに行くという発想。エレベータがあるわけではないので給食を運ぶのは大変だと思う。でも大きなホールが必要になってしまうのでしょうか。土地が余ってないですね。
- 食中毒の心配があり、冷凍食品を多く使っています。部活の朝練があると、6時台に作った弁当なので不安もあります。大磯の小学校（特に国府）の給食は”おいしい”と評判がいいです。中学校でも是非給食にしてもらえるといいなあと思っています。（独身の先生も助かるかも）子供も、おいしかった小学校の給食を食べたい、給食がいいと言っています。

○小学校のときまで給食でしたが、3・4時間目くらいになるとお腹が減って授業に集中できなくなる時がありましたが、給食のいい匂いがしてくると、楽しみになり頑張っ勉強しよう！！と気持ちのメリハリがありました。中学になると弁当だったので自分で作っていったので、あまり楽しみがありませんでした。中学も給食になったら子どもたちも喜ぶかと思ひます。

○現状は、土・日曜日も部活があり、週七日お弁当なので、お弁当作りの休みがありません。せめて、週に何日かでも（希望制）給食があると助かります。

<小学生保護者>

○中学生は成長段階でとても沢山吸収するものが多いと思うので、給食もその中の一部であり、栄養バランスなどもしっかり考えていただけるので必要だと思ひます。家で作るお弁当はどうしても偏ったものになりがちだと思ひます。

○近頃の経済状況はまだまだ厳しく、共働きを余儀なくせざるを得ない中、子育て中の家庭の弁当作りの負担軽減は大変有意義な税金の使い道のひとつと思ひます。核家庭、共働きというのが当たり前となる現況において”子育て”への支援対策＝少子化対策につながると思ひます。ぜひ、早急な計画を切に希望してあります。

○給食のおかげで好き嫌いが多かったが改善された。家庭の料理がワンパターン化してて給食のメニューで栄養バランスを整えていたり、子供から給食のリクエストされたりで私も勉強になっている。この時期はお弁当をもたせるのも心配（部活で朝練習があるときは昼まで時間が長く、いためてしまいそう）。

<町民>

○日本の将来を考えれば、男女とも高齢まで働かなければならないので、弁当をつくる負担は無くしていく必要あり。子育ての負担を少なくすることは大切。

○家庭弁当は、個人差があり、栄養的にも偏りがあると思ひます。温かい食事をスピーディーに出せる給食は、メリットが大きい。導入の実現化を期待する。

<中学生>

○確かに母や家族、自分で作ったのはおいしいと思ひますが、作っている方は大変だと思ひます。給食（食事）のありがたみを感じるためにも給食はとても良いと思ひます。

○今は父親などはもちろん母親も働くという家庭も多いので、親の人は作るのが朝の時間にとっても大変だと思ひるので給食がいい。また、母子家庭や父子家庭など家庭によって事情もあるから給食がいい。

○配膳などの仕事があることで責任感や絆が深まると思ひます。

○毎日色々な温かい料理が食べられるので良い。

○私は栄養バランスが良いものや、温かいご飯が食べたいので給食にしてほしいと思ひた。また、食中毒など、朝早くから作っているのだから、その点も少し心配。

○僕の家は学校まで遠く、時間がかかり、早くに家を出るので朝の時間はあまりなく、お弁当を作るとなるとお母さんが早起きしなくてはならぬ大変なので、給食にしてくれるとうれしいです。

○お弁当だと作る時間など、持ち物が多くなるから、とにかく大変なので給食が良い。

○配膳などは小学校でもやっいて少しは慣れていると思ひるので、問題はないと思ひます。

○みんな栄養バランスをとってないと思ひます。

○給食はおいしいし、温かい食べ物と冷たいデザートが食べられるから好きです。

○カレーなど、弁当じゃ食べれないものが食べれる。

<小学生>

○温かく栄養よくバランスがよくおいしいからです。あまり金もかからないから。お弁当だとさめてるから。（給食センターから運ぶなら、お弁当がいい）

○給食は、しっかりと栄養士さんが作っているから、家で作るお弁当よりずっと栄養が片寄らず、健康的なので良いと思ひます。

○給食だと、おかわりできて良い。

○栄養バランスがちゃんと取れていてすごくおいしい！家では食べられないものも給食では食べられる！お弁当だと昨日の残りものとかあるから、飽きちゃうけど給食では同じものは時間がたつてから出てくる！

○ぼくの、おばあちゃんはいつもお弁当にすると疲れちゃうから、給食の方がいい。お母さんは朝弁当のせいで大変なんです。少しでも楽にしたいです。

○税金が取れて経済効果が出るから。

<教職員>

○お弁当忘れ、また“弁当格差”を無くすためにも、小学校から引き続き給食にした方が良いのでは。

給食と家庭弁当を選べるのが良いと思う方々

<中学校保護者>

○生徒全員が毎日弁当を作ってもらえる環境下ではありません。保護者の病気や諸事情で困っている家庭がありますので、早急に対策をお願いします。

○今頃になって、やっと動き出した…？財政難は大磯だけではありません。動き出した歩みを立ち止まったり、あと戻りすることがないよう、前進して行ってほしいです。

○色々な家庭の事情にも通ずる問題なので簡単には決められないと思う。給食費の未納問題もあるので慎重に踏み切るべき。現状弁当でどんな問題があるのかわかりません。

○お弁当が負担かと言われてしまうと、NO！とは言いきれませんが、子どもと親をつなぐ愛情の証でもあるように思います。ただ、夏場など、傷みが気になる場合もあるので、選択であればよいのでは。仕事をしている親にとってはうれしい限りですが、毎日同じものを子ども達が食べる状態もどうかと思います。私は少し手抜きをしても愛情のこもったお弁当は大切！と考えます。

<小学生保護者>

○小学校の給食においても野菜など残す子が多いと聞きます。まずは小学校給食の残存率など調査し公表するべきではないでしょうか。同じ課題が発生するような体制にはするべきではないと思います。

○まず小学校で給食費未納がない上であがるべき話。それに町に予算がない、個人的にはどうでもよい。3年間くらい作ってあげたらと思う。なんでも町に負担とか要望を出すのはよいが本当に困っている所に予算を使って欲しい。本当に困っている人、命、体に関わること。

<町民>

○共働き、フルタイムなどお弁当作りも毎日となると負担。せめて給食にさせていただき、1ヶ月に何回かをお弁当デイにしてもらえるとありがたい。また、栄養バランスや旬の地場産などを使用し、健康面、町の活性化などにも役立つのでは。

○学問をうける権利などの必要だが、学校でみんなで一緒に栄養のある食事を食べる事ができるのも子どもには必要。アレルギーにも対応してもらえたらうれしい。

○給食の時に、皆で配膳、片付けなどの協同作業をし、温かい食事を皆でそろって取ることは、核家族化し、周りの人に時間を合わせるという作業が少なくなっている現代には重要と思う。

○給食導入について、財政的に厳しい面もあると思うが、明日を担う子ども達を育成するためにもケチらないで進めてください。

○食育を学校に頼る傾向が増加すると思います。集団生活での指導だけでなく、家庭での細やかな指導が不可欠です。

○おいしい給食を食べた子どもの記憶はそれと相まって、将来の大磯を愛する源にもなると思います。給食も、大磯でしか出せない食材、味付けなど、いくらでも工夫でき、その味を子供達が覚え親しみ、未来に繋げていくのではないかとも思えます。

○校舎や体育館なども老朽化しているので、給食の事だけでなく、町の財政など含み、トータルに考えてほしい。二人の子供が中学を卒業してから十年以上たっているのに、今の子ども達の生活がわからないので、難しい質問だった。

<中学生>

- 選べると良いと思う。弁当は弁当で好みのものを食べれるし、給食はあたたかいものを食べれるので人それぞれなので、自分の食べたい方を選べるようにしたい。
- 作る人によって、給食がいいか迷う。作る人、決める人を中学生（磯中）で審査すれば良いのでは？まずいものは食べたくない。
- 給食があればお弁当を作れないときはとてもよいと思いましたが、今の中学校の時間割のままだと、昼休みが無くなってしまったり、これから調整しないと難しいと思います。
- 家庭の事情もあるので給食がいい人、悪い人の両方の意見をいられるものを考えて下さい。
- 給食があるとあたたかいスープやほかほかのご飯などが食べられるので僕たちのモチベーションが上がると思う。また、おかわりができるので、弁当箱が小さい人もお腹いっぱい食べられると思う。
- 本当にそんなお金はありますか。もっと必要なものがあると思います。
- 給食にするなら、無農薬野菜、国産100%の材料などに、給食だけでもしてほしい。
- よくある食堂のように、お金で給食を買って、食後はおぼんをコンテナに出しておわりみたいな感じが良いです。
- 給食だと、めん類やスープ、おかず、ごはんなども温かく食べれるし、お弁当は自分の好きな物、好きな量を食べることができるから、両方あってほしい。
- プールで使い切っているのではないのでしょうか。冷水機とか冷蔵庫とか配備してください。そろそろお金の使い方をわかってください。

<小学生>

- 夏はさっぱりしたもの、冬は体が温まるものがいい。
- いままで給食だったから弁当も良いけれども、たまには、給食を食べたい。
- お弁当だと確かに好きなものを入れてもらうけど、給食は好きなものが入っていない時がある。給食だと普段たべないのが出る。
- ごはんのすすむおかずをだしてください
- 給食はお弁当とちがい、温かくて、いろいろな物が食べられるけど、お弁当はいつも食べてるものが食べれるので、交互が良いと思う。

<教職員>

- 父子家庭、母子家庭が増加している中、家庭の負担や子どもの栄養バランスを考えると良い点もあるかもしれません。

保護者…自校方式による給食の早期導入を望んでいる

「給食」の早期導入を望んでいます。理由は、弁当作りに負担を感じていることや、特に夏季における食中毒等衛生面について心配されています。近年は共働きが増え、毎朝の忙しさの中で、給食導入による負担軽減を望んでいるようです。

給食を導入する場合の方式については、各学校内の給食室で調理する「自校方式」を望んでいます。「親子方式」を選ぶ保護者も多くいましたが、自校と比較して安価で導入できるため、財政面を考慮した選択となっています。「温かい食事」、「作り手の顔が見える」といった理由から、財政面を度外視すれば、実質、「自校方式」が最も望ましいという考え方といえます。

町民…財政状況を見極めた上で、自校方式による給食を望んでいる

「給食」の導入を望みますが、財政状況を見極めた上で、町民にとっての優先順序を考慮してからの導入とすべきと考えています。

給食方式については、保護者同様、「自校方式」が望ましいとしています。

中学生…自分に合った量を食いたいから「家庭弁当」を望んでいる

「家庭弁当」を望んでいます。理由としては、「食べる量が調節できるから」が最も多数意見となりました。成長期の中学生にとって男女の差も含め、「食べる量の調節」は大きな問題のようです。

給食導入による「学校カリキュラムへの影響」については、大きな課題とは考えていないようです。しかし、部活動に所属している生徒たちにとっては、早朝練習から、授業、夕方の練習と続く中で、給食導入にかかる時間を心配している様子が伺えました。

小学生…家庭弁当は特別！という思いから「家庭弁当」を望んでいる

「家庭弁当」を望んでいます。理由としては中学生同様、「食べる量が調節できるから」となっています。意外にも現在の給食の量が「多い」、と感じている児童が多数いました。また、児童にとっては6年間給食を続けているため、遠足や運動会など、家庭弁当は「特別」という一種の憧れとなっているようです。

教職員…教育予算の優先度により、今までどおりの「家庭弁当」を望んでいる

「家庭弁当」を望んでいます。理由としては小・中学生同様「食べる量が調節できるから」と、「アレルギーの心配がないから」が上位を占めました。

給食導入による「学校カリキュラムへの影響」については、現場の教職員が最も心配しているようです。

また、給食導入による予算があるならば、学校施設の充実等他の教育予算に充てて欲しいという理由から、給食導入には消極的です。

4. 給食方式の特徴と課題

5つの給食方式について、それぞれの特徴と課題を挙げ、県内自治体での実施状況と合わせ一覧表にまとめました。

自校方式、センター方式及び親子方式は、完全給食の形となりますが、デリバリー方式と業者弁当方式は各家庭での選択制とし、家庭弁当との併用とするのが主流です。

自校方式	各学校に調理場を設けて給食を提供する方式(大磯・国府小学校方式) 【県内:山北町・開成町・松田町で実施】	
	特徴	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランス、食物アレルギーへの対応、適温給食、食育の推進や衛生管理面で優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳・片付けの時間が必要なため、学校カリキュラムの変更等調整を要する。 ・メニューにより残飯処理量が多くなる。 ・整備費の負担が大きい。 ・給食調理室建設による学校の活動空間の減少への対応
センター方式	複数校の給食を調理できる調理場を設けて、各学校に給食を提供する方式 【県内:小田原市、厚木市、大和市、二宮町、中井町、大井町ほかで実施】	
	特徴	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校4校分を集約することにより、給食の調理等効率的な運営ができ、小学校給食施設の老朽化の課題も解消される。 ・栄養バランス、食育の推進は、自校方式同様優れている。 ・適温給食、食物アレルギーへの対応、衛生管理の点では、調理する給食数が多いこと、配送の作業を要することから、自校方式と比較するとやや劣る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配送時間と配膳・片付けの時間が必要なため、学校カリキュラムの変更等調整を要する。 ・メニューにより残飯処理量が多くなる。 ・整備費の負担が大きい。 ・建設する際に、法的規制への対応、用地確保等の事務手続きが多岐に渡り、実施まで多くの課題・時間を要する。(都市計画法により建築可能な用途地域は、工業地域・準工業地域に限られ、市街化調整区域の場合は建築審査会の許可を要する。) ※民設民営方式とすれば、町としての事務手続きは不要となり、比較的早く実施が可能。
親子方式	近隣学校の給食室を活用して調理し、各学校に配送して給食を提供する方式 【県内:松田町の一部で実施】	
	特徴	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の給食施設を活用するため、調理等効率的な運営ができる。 ・栄養バランス、食物アレルギーへの対応、食育の推進は自校方式同様優れている。 ・適温給食、衛生管理の点は、配送の作業を要することから、自校方式と比較するとやや劣る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配送時間と配膳・片付けの時間が必要なため、学校カリキュラムの変更等調整を要する。 ・メニューにより残飯処理量が多くなる。 ・既存の小学校施設が老朽化しているため、整備費の負担が大きい。 ・増築等をする際に、法的規制への対応が大きな課題。他の場所への給食搬送施設は「工場扱い」となるため、センター方式同様に建築制限を受けるが、既存の小学校施設が住居系の用途地域であるため増築は不可。
デリバリー方式	民間事業者が給食の調理・学校への配送を委託する方式。献立作成、食材選定調達、調理方法の指示は全て教育委員会が行う。※家庭弁当との併用可能【県内:相模原市、海老名市、愛川町で実施】	
	特徴	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな予算を要する施設整備を伴わないため、比較的短期間での導入が可能。 ・栄養バランス、食育の推進に優れている。 ・配膳・片付け時間が短時間。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適温給食・アレルギー対応ができない。 ・給食希望者には、調理委託料等の公費が使われるが、家庭弁当持参者には公費が充てられないという不均衡が生ずる。
業者弁当方式	民間業者が自社の調理場で調理した弁当を生徒の注文に応じ各学校で購入する方式 ※家庭弁当との併用可能【県内:平塚市、藤沢市、伊勢原市、寒川町、葉山町ほかで実施】	
	特徴	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな予算を要する施設整備を伴わないため、比較的短期間での導入が可能。 ・配膳・片付け時間が短時間。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスが偏る可能性、適温給食・食育の推進・アレルギー対応ができない。 ・1食あたりの食費が高くなる可能性あり。

5. 給食方式別の経費比較

5つの給食方式について、必要な施設整備とそれにかかる初期投資額、年間の維持管理経費を試算し一覧にまとめました。また、長期間に渡る利用が想定されることから、大規模修繕経費も含めて30年間の経費を試算しました。

1食当たりの経費については、年間の維持管理費から算出した金額となっています。

実施方式	整備項目	施設整備費 初期投資額	維持管理 経費 /年間 (人件費含)	削減される経費 △	【30年間総額】 初期投資+維持管理 費/年×30年+大規模 修繕-削減経費	1食当たり の経費 (190日)
自校 (2校分)	・給食調理室(新築)	4億5千万円	3千5万円	64,000	約 20億円	217円 中学生 教職員 850人
	・エレベータ(新築)			※国庫補助金		
	・配膳待機室(各階増築)			(初年度)		
	・備品・食器類					
センター (小中 4校)	・建設用地	10億円	8千万円	126,000	約 25億円	168円 小学生 中学生 教職員 2,500人
	・給食調理場(新築)			※国庫補助金		
	・配送作業車			(初年度)		
	・エレベータ(2校増築)			1,632,150		
	・配膳待機室(2校各階増築)			※小学校施設廃止		
	・備品・食器類(2校)			(30年間)		
親子 (小学校 2校を 増築)	・給食調理室(2校増築)	4億円	3千5万円		約 19億円	217円 中学生 教職員 850人
	・配送作業車					
	・エレベータ(2校増築)					
	・配膳待機室(2校各階増築)					
	・備品・食器類					
デリバリー (2校分)	・配膳待機室(2校改装)	1千万円	3千万円		約 9億円	316円 中学生 教職員 500食
	・備品・食器類					
業者弁当 (2校分)	・配膳待機室(2校改装)	800万円	300万円		約 9千万円	

※各項目の金額については、他自治体の実績などを参考に算出した概算費用です。

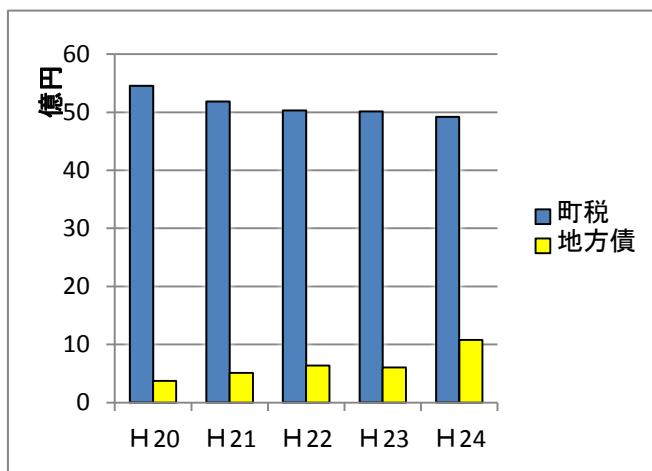
6. 大磯町の財政状況

①一般会計・歳入歳出決算の状況

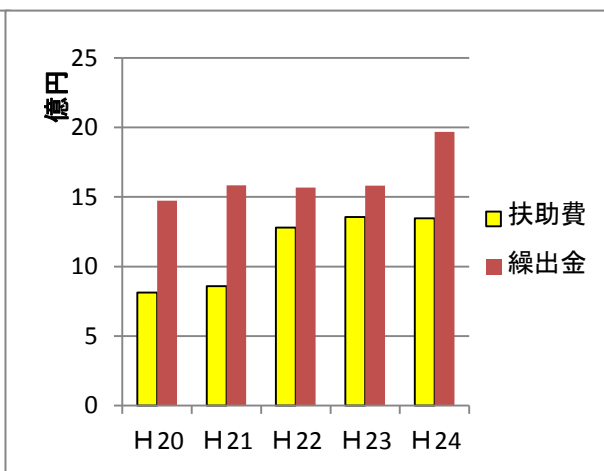
大磯町一般会計決算の状況を見ると、歳入はその根幹となる町税が、平成20年度をピークに年々減少しています。その財源確保のために、地方債（町の借金）によって補填している傾向にあります。

一方歳出は、扶助費（社会保障制度として、児童・高齢者・障害者等を支援する経費）と繰出金（一般会計から特別会計に支出する経費）の伸びが大きく、両方合わせて平成20年度から10億円以上の増となっています。繰出金のうちの約7割を占めるのは、国民健康保険、後期高齢者医療保険及び介護保険の予算で、扶助費同様、社会保障制度に係る経費が大幅に増加している状況です。

＜一般会計・歳入決算の状況＞



＜一般会計・歳出決算の状況＞



②大磯町の財政指標から

大磯町の財政指標を見ると、「経常収支比率」は絶えず90%を超え、財政運営上柔軟性がなく、突発的な事態への対応が難しいことを示しています。「財政力指数」は自立した自治体とされる1.0を下回っており、財政力が弱いことを示しています。「自主財源比率」は平成20年度から11.9ポイント減少し、年々町税など町自らで賄える収入が減少していることを示しています。

大磯町財政指標(一般会計)

項目/年度	H20	H21	H22	H23	H24
経常収支比率(%)	90.8	97.3	94.6	93.3	96.2
財政力指数	0.973	0.969	0.890	0.880	0.874
自主財源比率(%)	77.2	71.1	67.3	66.6	65.3

◆用語説明

- ・経常収支比率＝財政運営上の柔軟性(余裕)を表す指標。75%程度が適正と言われています。
- ・財政力指数＝文字通り自治体の財政力を表す指標。1.0以上の自治体は「自立している」と国は判断します。
- ・自主財源比率＝町民税や使用料・手数料など、自治体が自ら歳入を見込める財源の割合を表す指標です。

以上の状況から、大磯町が自ら用意する財源が減少傾向にあるのに対し、社会保障制度は増加の一途をたどっており、その財源捻出のために借金が増え、財政上の自由度や柔軟性が弱くなっています。その結果、政策的な事業や新しい事業を実施する上で大きな困難となっており、大磯町の予算編成上の課題となっています。

7. 小学校給食について

現在、町立小学校では、2校ともに自校方式での給食を実施しています。

大磯小学校の給食調理室は、昭和63年建築、築26年、国府小学校の給食調理室は、平成4年建築、築21年が経過し、共に数年後には大規模改修を必要とする状況にあります。

一方、大磯町の児童数は、平成30年までの推計では、ほぼ横ばいの状況となっていることから、小学校給食施設は、現状の規模で維持管理していく必要があり、施設老朽化への対応が課題となります。

仮にセンター方式を導入する場合は、小学校2校の給食調理室を廃止し、小中4校一括の給食センターを建設することにより、維持管理経費の軽減や効率的な運営ができ、小学校給食施設の老朽化対応の課題も解消されることとなります。また、親子方式を導入する場合も、2校それぞれの給食調理室の増改築が必要ですが、同様の効果が得られることが期待できます。

したがって、今後、小学校給食施設の老朽化に伴う大規模改修も視野に入れつつ、中学校給食も併せ、改めて給食方式の検討を進める必要があります。

8. 中学校給食の方向性

教育委員会では、中学校給食の必要性や導入に向けての課題等を整理し、教育委員会としての方向性を定めるために、「中学校給食の導入に係る教育委員会検討会」を立ち上げ具体的な検討を進めてまいりました。

検討に先立ち、平成24年10月から、小中学校の保護者、公募町民、小中学校長及び栄養教諭等によって「大磯町立中学校給食に関する懇話会」を組織し、検討を行いました。懇話会では、中学校給食の目的や効果、実施方法等について議論され、平成25年3月、「早い時期に自校方式での中学校給食の実施を希望する。」という意見書が教育委員会に提出されました。

教育委員会検討会では、懇話会の検討内容及び報告書、生徒・児童をはじめ保護者、町民、教職員を対象に実施したアンケート調査結果のほか、給食実施校への視察や導入に係る費用面、実施方法、法的課題等様々な角度から検証、協議を行い総合的に判断し、次のとおり、教育委員会としての方向性を決定しました。

I 中学校給食導入の可否について

中学校給食を導入する

II 給食方式について

デリバリー方式（調理・配送委託方式）とする

III 給食対象者について

生徒全員を原則とする。ただし、アレルギー対応等の状況により家庭弁当との選択も可能とする。

給食導入の可否について、アンケート調査の結果は全体の約7割の方が何らかの形で給食の導入を望んでいること、児童・生徒の選択は「家庭弁当」でしたが、「給食」と「どちらかを選ぶ」を合わせると同数以上となることから、総意としては給食の導入を望んでいると解されます。特に、保護者の意見としてあげられた、「毎日の弁当作りの負担」、「夏季の食中毒等衛生面での不安」が解消されます。

また、学校給食法や食育推進法が求めている「食育」において、義務教育としても重要な教育であることや懇話会の意見からも、給食の導入は必要と判断しました。

次に、**給食方式については**、懇話会の意見やアンケート調査での保護者と町民の意見は、「栄養バランス」、「温かい食事」及び「作り手の顔が見えて安心」が主な理由で「自校方式」を望んでいます。一方、生徒や児童、教職員は、「給食は必要ない」（家庭弁当）を選択した方が最も多く、理由として、生徒・児童は「食べる量が調節できる」、教職員は「学校カリキュラムへの影響」や「財政的課題」への心配をあげていました。

検討会では、懇話会で比較検討した5つの給食方式について、他自治体の給食実施校への視察、アンケート調査結果、給食方式別施設の将来的な大規模改修を含めた維持管理費推計

や本町の財政状況等に基づき、さらに詳細に検証した結果、学校給食導入における課題を整理した中で、次の観点から給食方式を選択することとしました。

- ①栄養バランス（食育）
- ②アレルギー対応
- ③食事量の調節
- ④導入までの期間
- ⑤法的課題への対応
- ⑥財政的課題
- ⑦学校カリキュラムへの影響

検討の結果、7つの課題を概ね満たすことができる方式は、「デリバリー方式（調理・配送委託方式）」でした。

「自校方式」は③④⑥⑦、「センター方式」と「親子方式」は③④⑤⑥⑦、「業者弁当方式」は①②③で大きな課題があることがわかりました。

一方、「デリバリー方式」は、①栄養バランス、④導入までの期間、⑤法的課題への対応、⑥財政的課題、⑦学校カリキュラムへの影響 は概ね問題はなく、②アレルギー対応、③食事量の調節 について工夫が必要となります。しかし、②については、「家庭弁当」との選択制とすること、③については、既にデリバリー方式で給食を実施している愛川町のように、おかわり用の米飯を用意するなどの工夫によって、ある程度は克服できます。また、食材の放射能検査は、現在大磯町立小学校給食食材に実施している内容で検査することも可能です。

給食導入を前提とすると、食育など学校給食の本来の目的から、「自校方式」は理想の形といえます。それは懇話会の意見、アンケート調査結果、また検討会メンバーの共通した意見でもありましたが、現実問題として町の財政状況は大きな課題であり、給食導入を進める上で、他の教育予算だけでなく、町全体に係る財政的課題であるという認識の上で、議論されました。そこで、様々な課題を克服し、早期に学校給食を導入するためには、「デリバリー方式」が最も有効な手段であり、現実として可能な方法であると結論付けました。

また、本方式は、初期投資額が比較的安価に抑えられるため、試行的な導入も可能であり、導入した後の課題への対応だけでなく、他の方式へ転換する場合でも、そのための施設整備自体が無駄にならず、状況に応じて柔軟な対応が可能です。

最後に、**給食対象者については**、学校給食の主旨から、生徒全員の給食が原則と考えますが、児童・生徒に対するアンケート調査結果やアレルギー対応などを考慮し、家庭弁当との選択制も可能としました。しかし、その場合、家庭弁当持参の家庭は、学校での昼食に関して、公費の還元が得られない、という不均衡が生じることから、何らかの配慮が必要と考えます。

今後は、「デリバリー」という方式が、単なる業者弁当ではないこと、特に、現在実施されている小学校の自校方式給食同様に、町の栄養士が栄養バランスを考えて献立を作り、安全な食材を町が調達し、委託業者を指導・監督した上で提供される「給食」であることを生徒や保護者に伝え、理解を得ることが重要と考えます。

また、学校では「食育」という教育の一環としてだけでなく、生徒たちが仲間と一緒に昼食を楽しむことができるよう取り組んでいただくことを願います。

さらに検討会での議論の中で、「給食無償化の検討」という提言が出されました。「給食の無償化」は、現在、各自治体で様々な子育て支援策が展開されている中、大磯町独自の施策として、大きなアピールになり、若い世代の流入施策の一つとしても有効ではないかと考えました。

給食方式の決定に当たり大きな課題である財政的課題を最小限に抑えたことや様々な行政改革を行うことによって、「給食無償化」は決して不可能ではないと考えます。大磯町独自の新たな政策によって、大磯町の活性化に寄与できればという思いがありますので、今後、小学校給食も含め、検討すべき課題と考えます。

今後は、本検討会によって決定した「中学校給食の方向性」を基本として、その実現に向けて、食育を始め、児童・生徒の健全な成長・育成の環境づくりのためにも、中学校給食が早期に実現されることを期待し、ここに意見書を提出します。

資 料

■ 中学校給食の導入に係る教育委員会検討会名簿（平成25年6月12日～9月18日）

職 名	氏 名
教育委員長	曾根田 眞二
委員長職務代理	青山 啓子
委員	竹内 清
委員	中野 泉
教育長	依田 勝也

■ 検討の経過

開催日	議 題	備考
第1回 平成25年6月12日	1) 中学校給食導入検討・協議スケジュールについて 2) 中学校給食導入検討・協議項目について 3) 中学校給食に関するアンケート（案）について 4) 中学校給食・先進地視察について	
第2回 平成25年6月27日	1) 先進地視察①（センター方式） ・二宮町学校給食センター ・二宮町立二宮西中学校	
第3回 平成25年7月2日	1) 先進地視察②（デリバリー方式） ・愛川町立愛川中原中学校	
第4回 平成25年7月10日	1) 先進地視察③（自校方式） ・開成町立文命中学校 2) 中学校給食実施方式の比較検討について	
第5回 平成25年7月30日	1) 中学校給食に関するアンケート結果について 2) 給食方式による施設整備費・維持管理経費について	
第6回 平成25年8月21日	1) 検討報告書の構成（案）について 2) 給食方式の課題等について 3) 中学校給食に関するアンケート結果について	
第7回 平成25年9月18日	1) 中学校給食に関するアンケート集計結果について 2) 給食方式等について 3) 検討会意見書（素案）について 4) 中学校給食の方向性について	

■ 中学校給食に関するアンケート調査票

※対象者別にアンケート調査票を作成し、無記名回答方式で実施

中学生用	(町立大磯中学校・国府中学校生徒)
小学生用	(町立大磯小学校・国府小学校児童)
中学生保護者用	(町立大磯中学校・国府中学校生徒の保護者)
小学生保護者用	(町立大磯小学校・国府小学校児童の保護者)
教職員用	(町立大磯中学校・国府中学校の教職員)
一般用	(町内在住の 1,000 名無作為抽出)

中学校給食に関するアンケート

～ご協力をお願いいたします～

大磯町立中学校の昼食は、これまで家庭で作る弁当を基本に、みなさんの健全な心と身体の成長を見守ってきましたが、社会状況の変化や食育の観点から、中学校給食の実施を求める声が挙がっています。

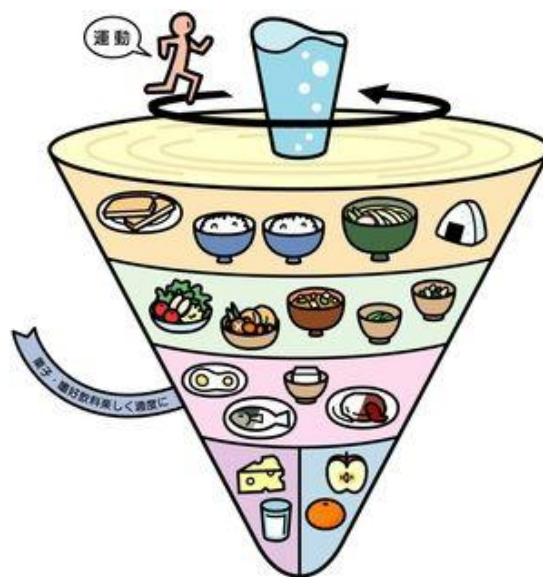
町教育委員会では、中学校給食の必要性や実施に向けての課題等を整理し、中学校給食のあり方について、検討を進めています。

ここで、中学校給食のあるべき姿や実現に向けての方法など、中学生のみなさんをはじめ、広く町民の方々の声をお聞きし、検討に向けての参考とさせていただきたく、「中学校給食に関するアンケート」を実施することとなりました。

みなさんのご協力をお願いいたします。

平成 25 年 7 月

大磯町教育委員会



【問い合わせ】

大磯町教育委員会 教育部 学校教育課 教育総務係
電話: 0463(61)4100

中学校給食に関するアンケート

※該当する□にレを記入してください

【問1】あなたの性別は

男 女

【問2】あなたの学年は

1年生 2年生 3年生

【問3】普段の自分の昼食は

家庭弁当 校内販売 購入して持参

【問4】家庭弁当は週5日のうち何回ですか

4～5回 2～3回 0～1回

【問5】食事や弁当を作るとき手伝いをしますか

よくする ときどきする あまりしない しない

【問6】家庭弁当は主にどなたが作っていますか

家族 自分 その他 弁当は作らない

【問7】主に自分で作る方にお聞きします。朝、弁当を作る時間について

充分にある あまりない

【問8】主に自分で作る方にお聞きします。弁当を作るのは大変ですか

大変じゃない 大変 どちらでもない

【問9】弁当を持ってこられないときはどうしていますか

校内販売 購入して持参 その他 ()

【問10】中学校の昼食としてどの方法がよいと思いますか

今までどおり「家庭弁当」がよい ⇒ 【問11・問14～】

小学校のように「給食」がよい ⇒ 【問12・問14～】

「家庭弁当」と「給食」を選べるとよい ⇒ 【問13・問14～】

【問11】家庭弁当と答えたのはなぜですか(複数回答可)

栄養バランスがよいから

好きなものが食べられるから

家族が作ってくれるから

食べる量が調節できるから

アレルギーの心配がないから

その他 ()

【問 12】給食と答えたのはなぜですか(複数回答可)

- 栄養バランスがよいから
- 嫌いなものでも食べられるようになるから
- 弁当を作らなくてよいから
- あたたかい食べ物が食べられるから
- その他 ()

【問 13】選べるとよいと答えたのはなぜですか(複数回答可)

- どちらも食べたいから
- 弁当を持ってこられないときがあるから
- いつも同じだと飽きてしまうから
- その他 ()

【問 14】中学校給食を導入した場合の課題について「配膳・片付けに時間がかかるため、教育カリキュラムや課外活動などに影響がある」との意見がありますが、あなたの考えに近いものは

- 多くの学校で実施しているので大きな課題とは思わない
- 学校活動への影響は大きな課題と考える
- どちらでもない

【問 15】給食について、自由なご意見をお書きください。

ご協力ありがとうございました。

中学校給食に関するアンケート

～ご協力をおねがいします～

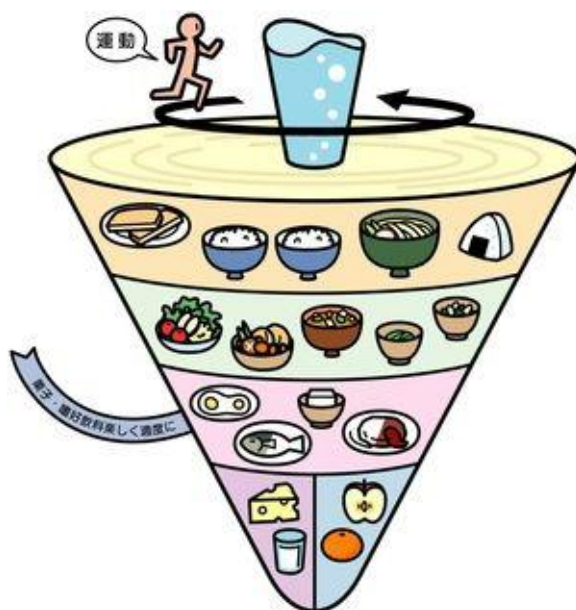
大磯町の中学校の昼食は、それぞれの家庭でお弁当を作り、学校に持ってきています。しかし、わたしたち一人ひとりの生活習慣がちがうこと、また食事の栄養バランスの大切さを学ぶことなど、小学校と同じように、給食をはじめてはどうだろうか？という意見があります。

大磯町教育委員会では、中学校給食について話し合いを始めることになり、小学生のみなさんの意見も参考とするため、「中学校給食に関するアンケート」を行うことになりました。

みなさんのご協力をおねがいします。

平成 25 年 7 月

大磯町教育委員会



【問い合わせ】

大磯町教育委員会 教育部 学校教育課 教育総務係
電話:0463(61)4100

中学校給食に関するアンケート

～ご協力をお願いいたします～

大磯町立中学校の昼食は、これまで家庭で作る弁当を基本に、子どもの健全な心と身体の成長を見守ってきましたが、社会状況の変化や食育の観点から、中学校給食の実施を求める声が挙がっています。

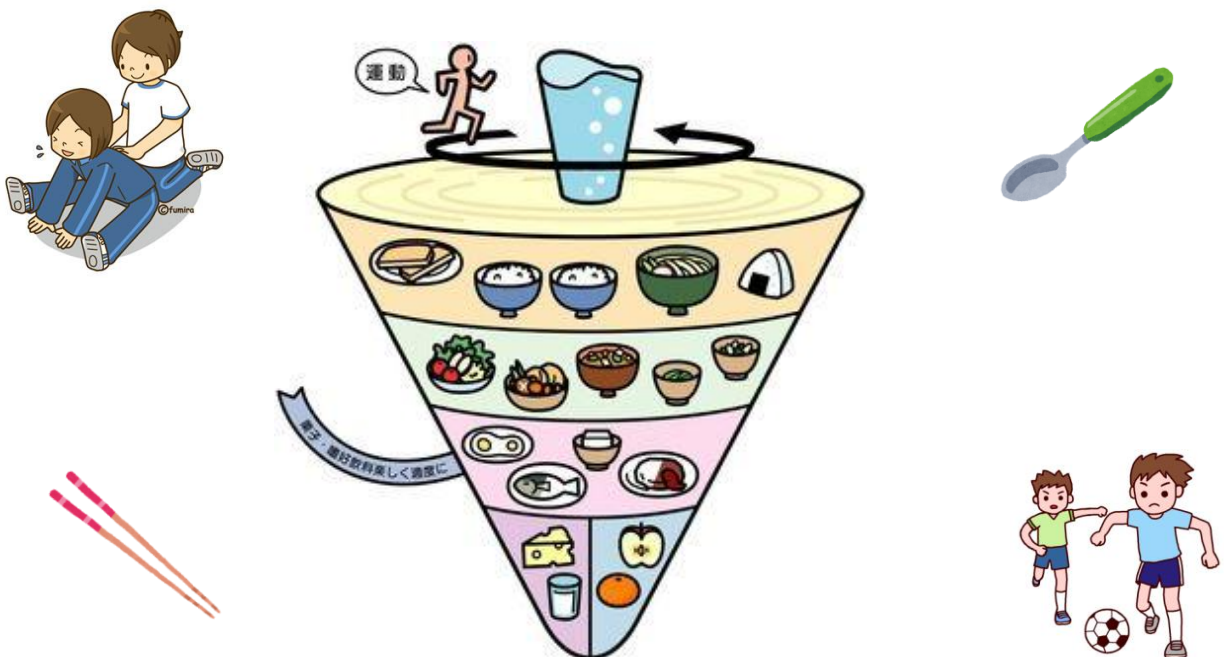
町教育委員会では、中学校給食の必要性や実施に向けての課題等を整理し、中学校給食のあり方について、検討を進めています。

ここで、中学校給食のあるべき姿や実現に向けての方法など、広く町民の方々の声をお聞きし、検討に向けての参考とさせていただきたく、「中学校給食に関するアンケート」を実施することとなりました。

皆様のご協力をお願いいたします。

平成 25 年 7 月

大磯町教育委員会



【問い合わせ】

大磯町教育委員会 教育部 学校教育課 教育総務係
電話: 0463(61)4100

中学校給食に関するアンケート

※該当する□にレを記入してください

※ご家族であればどなたが記入していただいても構いません

※小学校と中学校両方にお子様をお持ちの方は、「中学生保護者用」の様式で回答をお願いします

※中学校に複数のお子様をお持ちの方は、回答は一通で構いません

※ご提出は、7月16日(火)までをお願いします。

【問1】あなたの性別は

男 女

【問2】あなたの年齢は

20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代以上

【問3】あなたの職業は

勤め人（パート・アルバイト含む） 自営業 専業主婦・主夫
学生 無職 その他（ ）

【問4】お子さんは何人いらっしゃいますか

1人 2人 3人 4人以上（ ）人

【問5】中学生以外のお子さんの学年は(複数回答可)

乳幼児 小学1～3年生 小学4～6年生 高校生以上

【問6】普段のお子さん(中学生)の昼食は

家庭弁当 校内販売 購入して持参

【問7】家庭弁当は週5日のうち何回くらいですか

4～5回 2～3回 0～1回

【問8】家庭弁当は主にどなたが作っていますか

家族 生徒 その他 弁当は作らない

【問9】朝、弁当を作る時間について

充分にある あまりない 作らない

【問10】弁当を作るのは苦ですか

苦にならない 苦になる どちらでもない 作らない

【問11】弁当を作ることができないときはどうしていますか

校内販売 購入して持参 その他（ ）

【問 12】中学校の昼食としてどの方法がよいと思いますか

- 今までどおり「家庭弁当」がよい ⇒ 【問 13・問 16 へ】
- 小学校のように「給食」がよい ⇒ 【問 14・問 16 へ】
- 「家庭弁当」と「給食」を選べるとよい ⇒ 【問 15・問 16 へ】

【問 13】「家庭弁当」と答えたのはなぜですか(複数回答可)

- 栄養バランスがよいから
- 好きなものが食べられるから
- 家庭の手作り弁当を食べさせたいから
- 食べる量が調節できるから
- アレルギーの心配がないから
- その他 ()

【問 14】「給食」と答えたのはなぜですか(複数回答可)

- 栄養バランスがよいから
- 嫌いなものでも食べられるようになるから
- 弁当を作らなくてよいから
- あたたかい食べ物が食べられるから
- その他 ()

【問 15】選べるとよいと答えたのはなぜですか(複数回答可)

- どちらも食べたいから
- 弁当を持ってこられないときがあるから
- いつも同じだと飽きてしまうから
- その他 ()

【問 16】中学校給食を導入した場合の課題について「配膳・片付けに時間がかかるため、教育カリキュラムや課外活動などに影響がある」との意見がありますが、あなたの考えに近いものは

- 多くの学校で実施しているので大きな課題とは思わない
- 学校活動への影響は大きな課題と考える
- どちらでもない

【問 17】中学校給食を導入する場合どの方式が最もよいと思いますか

(次ページの「☆給食方式の特徴と課題」を参考にお答えください。)

- 小学校のように自分の学校で作る「自校方式」
- 給食調理室を1箇所を集約、新たに建設する「センター方式」
- 小学校の給食調理室を増築し、自校と中学校へ配送する「親子方式」
- 町栄養士が献立を考え、業者が調理し配送する「デリバリー方式」
- 業者が調理した弁当を配送する「業者弁当方式」
- 中学校給食は必要ない

☆給食方式ごとの特徴と課題

給食の方式	特 徴	課 題	施設整備費
			年間維持管理費
自 校	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 	約5億円
			約4,000万円
センター	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 ・施設集約による効率的運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・配送時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 ・法規制の調整を要する 	約10億円 ※土地購入費含
			約8,000万円
親 子	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 ・効率的運営（既存施設利用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・配送時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 ・法規制の調整を要する 	約4億円
			約4,000万円
デリバリー	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・比較的短期間で導入可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい食事は困難 ・アレルギー対応は困難 ・栄養士の配置が必要 	約1億円
			約2,500万円
業者弁当	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間不要 ・調理員等の配置が不要 ・短期間で導入可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランス管理が困難 ・温かい食事は困難 ・アレルギー対応は困難 ・食育の推進は困難 	—

※施設整備費と年間維持管理費は、他自治体の実績などを参考に算出した概算費用です。

【問18】問17で回答した主な理由は何ですか

【問19】中学校給食を導入する場合の時期について

- 早急に給食を導入すべき
- 財政の許す範囲で導入すべき
- 今は無理でも、将来的には導入すべき
- 中学校給食は必要ない

【問 20】問 19 で回答した主な理由は何ですか

[]

【問 21】中学校給食について、自由なご意見をお書きください。

[]

ご協力ありがとうございました。

○記入が終わりましたら、封筒に入れ、7月16日(火)までに、お子様から学校にご提出ください。

中学校給食に関するアンケート

～ご協力をお願いいたします～

大磯町立中学校の昼食は、これまで家庭で作る弁当を基本に、子どもの健全な心と身体の成長を見守ってきましたが、社会状況の変化や食育の観点から、中学校給食の実施を求める声が挙がっています。

町教育委員会では、中学校給食の必要性や実施に向けての課題等を整理し、中学校給食のあり方について、検討を進めています。

ここで、中学校給食のあるべき姿や実現に向けての方法など、広く町民の方々の声をお聞きし、検討に向けての参考とさせていただきたく、「中学校給食に関するアンケート」を実施することとなりました。

皆様のご協力をお願いいたします。

平成 25 年 7 月

大磯町教育委員会



【問い合わせ】

大磯町教育委員会 教育部 学校教育課 教育総務係
電話:0463(61)4100

中学校給食に関するアンケート

※該当する□にレを記入してください

※ご家族であればどなたが記入していただいても構いません

※小学校と中学校両方にお子様をお持ちの方は、「中学生保護者用」の様式で回答をお願いします

※ご提出は、7月16日(火)までをお願いします。

【問1】あなたの性別は

男 女

【問2】あなたの年齢は

20 歳代 30 歳代 40 歳代 50 歳代 60 歳代以上

【問3】あなたの職業は

勤め人 (パート・アルバイト含む) 自営業 専業主婦・主夫
学生 無職 その他 ()

【問4】お子さんは何人いらっしゃいますか

1人 2人 3人 4人以上 ()人

【問5】お子さんの学年は(複数回答可)

乳幼児 小学1～3年生 小学4～6年生 中学生 高校生以上

※問6から問11までは、お子さんが中学生になられたときを想定してお答えください

【問6】普段のお子さん(中学生)の昼食は

家庭弁当 校内販売 購入して持参

【問7】家庭弁当は週5日のうち何回くらいですか

4～5回 2～3回 0～1回

【問8】家庭弁当は主にどなたが作っていますか

家族 生徒 その他 弁当は作らない

【問9】朝、弁当を作る時間について

充分にある あまりない 作らない

【問10】弁当を作るのは苦ですか

苦にならない 苦になる どちらでもない 作らない

【問11】弁当を作ることができないときはどうしますか

校内販売 購入して持参 その他 ()

【問 12】中学校の昼食としてどの方法がよいと思いますか

- 今までどおり「家庭弁当」がよい ⇒ 【問 13・問 16 へ】
- 小学校のように「給食」がよい ⇒ 【問 14・問 16 へ】
- 「家庭弁当」と「給食」を選べるとよい ⇒ 【問 15・問 16 へ】

【問 13】「家庭弁当」と答えたのはなぜですか(複数回答可)

- 栄養バランスがよいから
- 好きなものが食べられるから
- 家庭の手作り弁当を食べさせたいから
- 食べる量が調節できるから
- アレルギーの心配がないから
- その他 ()

【問 14】「給食」と答えたのはなぜですか(複数回答可)

- 栄養バランスがよいから
- 嫌いなものでも食べられるようになるから
- 弁当を作らなくてよいから
- あたたかい食べ物が食べられるから
- その他 ()

【問 15】選べるとよいと答えたのはなぜですか(複数回答可)

- どちらも食べたいから
- 弁当を持ってこられないときがあるから
- いつも同じだと飽きてしまうから
- その他 ()

【問 16】中学校給食を導入した場合の課題について「配膳・片付けに時間がかかるため、教育カリキュラムや課外活動などに影響がある」との意見がありますが、あなたの考えに近いものは

- 多くの学校で実施しているので大きな課題とは思わない
- 学校活動への影響は大きな課題と考える
- どちらでもない

【問 17】中学校給食を導入する場合どの方式が最もよいと思いますか

(次ページの「☆給食方式の特徴と課題」を参考にお答えください。)

- 小学校のように自分の学校で作る「自校方式」
- 給食調理室を1箇所を集約、新たに建設する「センター方式」
- 小学校の給食調理室を増築し、自校と中学校へ配送する「親子方式」
- 町栄養士が献立を考え、業者が調理し配送する「デリバリー方式」
- 業者が調理した弁当を配送する「業者弁当方式」
- 中学校給食は必要ない

☆給食方式ごとの特徴と課題

給食の方式	特 徴	課 題	施設整備費 年間維持管理費
自 校	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 	約 5 億円 ----- 約 4,000 万円
センター	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 ・施設集約による効率的運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・配送時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 ・法規制の調整を要する 	約 10 億円 ※土地購入費含 ----- 約 8,000 万円
親 子	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 ・効率的運営（既存施設利用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・配送時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 ・法規制の調整を要する 	約 4 億円 ----- 約 4,000 万円
デリバリー	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・比較的短期間で導入可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい食事は困難 ・アレルギー対応は困難 ・栄養士の配置が必要 	約 1 億円 ----- 約 2,500 万円
業者弁当	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間不要 ・調理員等の配置が不要 ・短期間で導入可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランス管理が困難 ・温かい食事は困難 ・アレルギー対応は困難 ・食育の推進は困難 	—

※施設整備費と年間維持管理費は、他自治体の実績などを参考に算出した概算費用です。

【問 18】問 17 で回答した主な理由は何ですか

【問 19】中学校給食を導入する場合の時期について

- 早急に給食を導入すべき
- 財政の許す範囲で導入すべき
- 今は無理でも、将来的には導入すべき
- 中学校給食は必要ない

【問 20】問 19 で回答した主な理由は何ですか

[]

【問 21】中学校給食について、自由なご意見をお書きください。

[]

ご協力ありがとうございました。

○記入が終わりましたら、封筒に入れ、7月16日(火)までに、お子様から学校にご提出ください。

中学校給食に関するアンケート

～ご協力をお願いいたします～

大磯町立中学校の昼食は、これまで家庭で作る弁当を基本に、子どもの健全な心と身体の成長を見守ってきましたが、社会状況の変化や食育の観点から、中学校給食の実施を求める声が挙がっています。

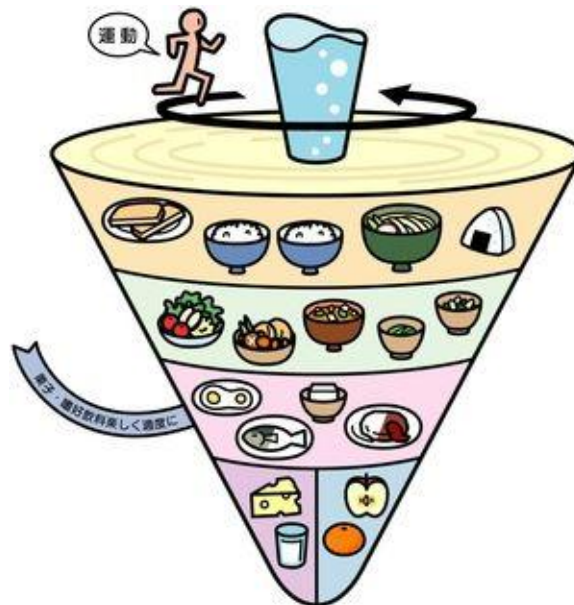
町教育委員会では、中学校給食の必要性や実施に向けての課題等を整理し、中学校給食のあり方について、検討を進めています。

ここで、中学校給食のあるべき姿や実現に向けての方法など、広く町民の方々の声をお聞きし、検討に向けての参考とさせていただきたく、「中学校給食に関するアンケート」を実施することとなりました。

皆様のご協力をお願いいたします。

平成 25 年 7 月

大磯町教育委員会



【問い合わせ】

大磯町教育委員会 教育部 学校教育課 教育総務係
電話: 0463(61)4100

【問 11】「給食」と答えたのはなぜですか(複数回答可)

- 栄養バランスがよいから
- 嫌いなものでも食べられるようになるから
- 弁当を作らなくてよいから
- あたためた食べ物が食べられるから
- その他 ()

【問 12】選べるとよいと答えたのはなぜですか(複数回答可)

- どちらも食べたいから
- 弁当を持ってこられないときがあるから
- いつも同じだと飽きてしまうから
- その他 ()

【問 13】中学校給食を導入した場合の課題について「配膳・片付けに時間がかかるため、教育カリキュラムや課外活動などに影響がある」との意見がありますが、あなたの考えに近いものは

- 多くの学校で実施しているので大きな課題とは思わない
- 学校活動への影響は大きな課題と考える
- どちらでもない

【問 14】中学校給食を導入する場合どの方式がよいと思いますか

(「☆給食方式の特徴と課題」を参考にお答えください。)

- 小学校のように自分の学校で作る「自校方式」
- 給食調理室を1箇所を集約、新たに建設する「センター方式」
- 小学校の給食調理室を増築し、自校と中学校へ配送する「親子方式」
- 町栄養士が献立を考え、業者が調理し配送する「デリバリー方式」
- 業者が調理した弁当を配送する「業者弁当方式」
- 中学校給食は必要ない

☆給食方式ごとの特徴と課題

給食の方式	特 徴	課 題	施設整備費
			年間維持管理費
自 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養バランスがよい ・ 温かい食事 ・ 食育の推進 ・ アレルギー対応可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配膳、片付け時間が必要 ・ 栄養士、調理員の配置が必要 ・ 整備費、維持管理費負担が大 	約 5 億円
			約 4,000 万円
センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養バランスがよい ・ 温かい食事 ・ 食育の推進 ・ アレルギー対応可能 ・ 施設集約による効率的運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配膳、片付け時間が必要 ・ 配送時間が必要 ・ 栄養士、調理員の配置が必要 ・ 整備費、維持管理費負担が大 ・ 法規制の調整を要する 	約 10 億円 ※土地購入費含
			約 8,000 万円

親子	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 ・効率的運営(既存施設利用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・配送時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 ・法規制の調整を要する 	約4億円
			約4,000万円
デリバリー	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・比較的短期間で導入可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい食事は困難 ・アレルギー対応は困難 ・栄養士の配置が必要 	約1億円
			約2,500万円
業者弁当	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間不要 ・調理員等の配置が不要 ・短期間で導入可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランス管理が困難 ・温かい食事は困難 ・アレルギー対応は困難 ・食育の推進は困難 	—

※施設整備費と年間維持管理費は、他自治体の実績などを参考に算出した概算費用です。

【問15】問14で回答した主な理由は何ですか

()

【問16】中学校給食導入の時期について

- 早急に給食を導入すべき
- 財政の許す範囲で導入すべき
- 今は無理でも、将来的には導入すべき
- 中学校給食は必要ない

【問17】問16で回答した理由は何ですか

()

【問18】中学校給食について、自由なご意見をお書きください。

()

ご協力ありがとうございました。

中学校給食に関するアンケート

～ご協力をお願いいたします～

大磯町立中学校の昼食は、これまで家庭で作る弁当を基本に、子どもの健全な心と身体の成長を見守ってきましたが、社会状況の変化や食育の観点から、中学校給食の実施を求める声が挙がっています。

町教育委員会では、中学校給食の必要性や実施に向けての課題等を整理し、中学校給食のあり方について、検討を進めています。

ここで、中学校給食のあるべき姿や実現に向けての方法など、広く町民の方々の声をお聞きし、検討に向けての参考とさせていただきたく、「中学校給食に関するアンケート」を実施することとなりました。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

○ご記入・ご提出は、7月22日(月)までをお願いいたします。

○ご記入が終わりましたら、同封の封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。

○ご提出は、大磯町役場本庁舎、国府支所窓口でも受け付けます。

平成 25 年 7 月

大磯町教育委員会



【問い合わせ】

大磯町教育委員会 教育部 学校教育課 教育総務係
電話: 0463(61)4100

【問8】中学校給食を導入する場合どの方式がよいと思いますか

(「☆給食方式の特徴と課題」を参考にお答えください。)

- 小学校のように自分の学校で作る「自校方式」
- 給食調理室を1箇所を集約、新たに建設する「センター方式」
- 小学校の給食調理室を増築し、自校と中学校へ配送する「親子方式」
- 町栄養士が献立を考え、業者が調理し配送する「デリバリー方式」
- 業者が調理した弁当を配送する「業者弁当方式」
- 中学校給食は必要ない

☆給食方式ごとの特徴と課題

給食の方式	特 徴	課 題	施設整備費
			年間維持管理費
自 校	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 	約5億円
			約4,000万円
センター	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 ・施設集約による効率的運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・配送時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 ・法規制の調整を要する 	約10億円 ※土地購入費含
			約8,000万円
親 子	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・温かい食事 ・食育の推進 ・アレルギー対応可能 ・効率的運営(既存施設利用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間が必要 ・配送時間が必要 ・栄養士、調理員の配置が必要 ・整備費、維持管理費負担が大 ・法規制の調整を要する 	約4億円
			約4,000万円
デリバリー	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがよい ・比較的短期間で導入可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい食事は困難 ・アレルギー対応は困難 ・栄養士の配置が必要 	約1億円
			約2,500万円
業者弁当	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、片付け時間不要 ・調理員等の配置が不要 ・短期間で導入可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランス管理が困難 ・温かい食事は困難 ・アレルギー対応は困難 ・食育の推進は困難 	—
			—

※施設整備費と年間維持管理費は、他自治体の実績などを参考に算出した概算費用です。

【問9】問8で回答した主な理由は何ですか

【問 10】中学校給食を導入する場合の時期について

- 早急に給食を導入すべき
- 財政の許す範囲で導入すべき
- 今は無理でも、将来的には導入すべき
- 中学校給食は必要ない

【問 11】問 10 で回答した主な理由は何ですか

()

【問 12】中学校給食について、自由なご意見をお書きください。

()

ご協力ありがとうございました。

- ご記入・ご提出は、7月22日(月)までをお願いします。
- ご記入が終わりましたら、同封の封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。
- ご提出は、大磯町役場本庁舎、国府支所窓口でも受け付けます。